



福井高専

# 青武台だより



No.208

平成28年3月18日発行

## 目 次

ページ

1. 卒業生・修了生に贈る言葉	
校長	2
教育後援会会長・進和会会长	3
2. 卒業生クラス紹介	4~8
3. 修了生クラス紹介	9~10
4. 各学科卒業研究・指導教員紹介	11~13
5. 専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介	13
6. 学生の将来と進路	14~15
7. 活躍する仲間	
平成27年度ふくい理数グランプリに参加して	16
第9回GPS-QZSSロボットカーコンテスト(ダブルバイロンレース)に参加して	16
第7回IIBCエッセイコンテストに参加して	17
第12回全国デザインコンペティションに参加して	17
第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加して	18
2015年少林寺拳法全国大会 in.KYOTO	18
第35回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会将棋部門	19
第35回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会囲碁部門	19
オムロン高専機構 共同教育プロジェクト 平成27年度生産技術コンテスト	20
第24回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に参加して	20
平成27年度優秀学生賞	21
平成27年度資格取得者一覧	22
平成27年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要	23~24
8. 見学旅行について	25~27
9. 校外研修について	27~28
10. 遠足について	29
11. 平成27年度外国人留学生見学旅行	30
12. 地域連携JOINTフォーラム2015	30
13. 第21回マグネットコンテスト表彰式	31
14. 中学生の皆さんへ	
中学校だより 大野市上庄中学校	31
平成28年度入学者選抜について	32
平成28年度入学者選抜実施状況一覧	32
15. 退職にあたって	32~34
16. 学園通信	
平成27年度留学生との懇親会報告	35
平成27年度福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び校長特別賞・校長賞受賞者	36
平成28年度教育後援会総会	37

独立行政法人国立高等専門学校機構  
福井工業高等専門学校

National Institute of Technology, Fukui College

## 卒業生・修了生に贈る言葉



### 卒業・修了おめでとう

校長 松田 理

卒業ならびに修了を迎える本科192名、専攻科26名の皆さん、おめでとうございます。本校教職員、在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんは、早いうちから技術者の道を選択し、幅広い教養とそれぞれの専門分野での知識・技術を得し、創造的・実践的技術者としての備えるべき本を身につけたことだと思います。これから、本校で学び培った能力を思う存分發揮し、大いに活躍してもらいたいと思います。

本校は、この平成27年度に創立50周年を迎えましたが、ちょうど君達が生まれた20年前、ノーベル賞受賞者の江崎玲於奈先生が講演に来られ、「創造力と未知への挑戦」と色紙に書かれて行かれました。図書館2階のコミュニティプラザにあるのを知っているでしょう。「挑戦」は若者の特権です。挑戦には数々の困難と失敗がつきものですが、失敗を恐れていては先に進みません。失敗しても、その原因究明により新たな発見があります。時には、既成概念に「疑問を抱く」ことも必要です。これまでやってきたからと言って必ずしも正しいとは限りません。また、自分の世界だけで「これが最高だ」と言っているうちは成長が望めません。現状に満足せず、絶えず向上心を忘れず努力することが自分を成長させることに繋がります。

また、技術は人類の夢を実現するものであり、究極的には人間愛のためにあります。人と自然と、そして社会と繋がってこそ認められ、従って、人間環境や自然環境に配慮した、また調和した技術でなければ、社会に入れてもらえないのです。基礎知識と応用力、そして的確な情報判断により、技術立国日本を背負って欲しいのです。

そして、皆さんは技術の担い手として、また、健全な人間社会を構成する一員として、高い倫理観を持ち続けなければならないのです。決して、自分本位の、視野狭窄的な考えを持つのではなく、自律し善悪を判断する力、また真偽を見抜く力とともに、専門以外の方々とも話のできる良識ある人間になつ

て欲しいと思います。

そのためには、哲学的思考や文化的素養と豊かな感性は、大きな要素です。柔軟な発想や適応力、また異文化を受入れる能力により、必ず道は開ける信じています。未来は現在の結果です。是非、それぞれの夢に向かって、現在を精一杯生きてほしいと思います。

これからますますグローバル化が進む時代です。宗教や職業観、また価値観さえ異なる人々と力を合わせて、物事を達成して行かねばならない時もあるでしょう。その意味で、人間力があり、周りと協力しチーム力のある人間として成長して欲しいと思います。そのためにも、本校で学んだ学友の絆を大切にして欲しいと願っています。

高専は、その技術者教育において国内外から高い評価を受けており、従って、産業競争力の切り札と言っても過言ではありません。

本校の教育方針のもとで学び、個々のアイデンティティを確立された皆さんは、言うなれば福井高専の社会に対するメッセージでもあります。どうかこれから複雑多岐に亘る時代、是非、持てる力を十分に発揮し、様々な場面でキーパーソンとして活躍され、他人から求められる人間、魅力ある人間として成長されることを祈念しています。



## 卒業生・修了生に贈る言葉



### 感謝の気持ちを持って

教育後援会会長

川尻 和巳

卒業ならびに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。高専での学業生活は、いかがでしたか。長い人生のごく一握りの時間の中で、皆さんには見違えるように立派に成長されたことだと思います。これはひとえに、高度な専門知識と技術を学習し、部活動と課外活動で、多分な人間性を養ったおかげではないでしょうか。そして、忘れてはいけないのが、ご家族や先生方はもちろん、先輩・後輩・友達への感謝の気持ちです。この感謝の気持ちを持ち続けて、これから新たな道に進んでください。さらなるスキルUPを求めて進学する人、社会人として会社に進む人などに道は分かれますが、どちらも、苦あれば楽ありで、とくに会社に勤めだす人には、幾度もの壁と苦悩が待ち受けていることでしょう。仕事をするうえで、自分のことばかりに集中するのではなく、余裕をもって周りの先輩や上司が、今、何をしているのか、見回しながら仕事をしてください。技術者としても、世の中の流れや、ニーズに合った物作り・開発が必要になってきます。自己向上には、勉強だけでなく、周りの上司・先輩などから技術を吸収してください。困ったときや悩んだときは、迷わず先輩や上司に質問してください、必ず、よいアドバイスが貰える筈です。楽しいこと、嬉しいことがたくさんあります。また、辛いこと、寂しいこともたくさんあるのが社会生活です。そんな時こそ、自分に自信をもって生きていってください。

本年度、福井高専50周年を迎えた年に、新たな旅立ちをする皆さんには、約7,000人の卒業生OBの活躍に引けを取らない活躍をしていただき、10年後・20年後の福井高専の社会的信頼を担う一因として活躍していることを信じております。  
頑張ってください。



### クラス会を開こう

進和会会長

前川 忠博

本科及び専攻科の皆様、ご卒業おめでとうございます。

福井高専同窓会「進和会」を代表しまして、皆様のご卒業をお慶び申し上げるとともに、これからのご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は福井高専が50周年を迎えて、さまざまなイベントが行われました。その年度に卒業される皆様はいつもの年とは違う何かを感じられたのではないかでしょうか。同窓会も会員の皆様と50周年を祝い、イベント、総会、祝賀会をサンドームで開き大いに盛り上りました。

同窓会の役割として、一つは母校の発展に寄与すること、もう一つは会員の親睦をはかり情報の交換や共有化をはかることがあります。そうするために必要なのが名簿の作成です。最近は個人情報の管理が難しくなっていますが、会報の発行や同窓会開催の案内などには氏名及び住所が必要なため、同窓会には必ず連絡していただきたいと思います。

私のクラスも卒業して40年以上になりますが、毎年クラス会を開いています。クラス会を頻繁にやっていれば情報の交換も簡単になります。せひとも卒業生の皆さんは、オリンピックの年にはクラス会を開くとか、今のうちに決めてもらいたいものです。また、最近はメールやラインで簡単にできると思われますので、クラスに1人幹事を決めていただきたいものです。私のクラスも44年前の卒業時に決めたものがいまだに続いている。クラスというのはどれだけ時間がたっても会えば一瞬のうちに学校時代に戻ることができます。せひとも開いてもらいたいと思います。もう一つ、皆さんのが入社する会社には先輩がいると思いますので、会って話をしてみてください。

最後に、住所変更等は必ず下記にご連絡ください。

**【連絡先】**

〒916-0064

福井県鯖江市下司町 福井高専進和会事務局  
TEL 0778-62-1111 FAX 0778-62-2597

## 卒業生クラス紹介

## 機械工学科



## 目前のことを一生懸命に

機械工学科5年担任 千徳英介

5年生の皆さん卒業おめでとうございます。さて、私は3年生から皆さんの担任を引き継ぎ、たくさんの思い出を貰いました。3年生では、工場見学旅行で関西・九州地方を巡りました。青い空と青い海に映える軍艦島と皆さんのぎこちないスーツ姿が非常に印象的でした。4年生では、総合優勝を成し遂げた体育祭がありました。少しおとなしいクラスだと思っていましたが、応援ではエネルギーに溢れた演技を見せて、クラスの印象をがらりと変え、私を驚かせてくれました。5年生では、危うさを見せる場面もありましたが、全員が己の進路について積極的に考え、悩んでくれたことを嬉しく思いました。まだまだ思い出はたくさんあると思いますが、こういった経験の積み重ねが今の皆さんを作っています。ですから、より良い自分を作る近道は、目前のことに対して一生懸命に取り組むことです。そうすれば新天地でも、これまで以上に活躍できると確信しています。

## 初心忘るべからず

機械工学科5年 堀田岳

平成28年2月、私はあと1ヶ月で卒業を迎える（予定である）。こうやって卒業を目前に控えると、不思議な気持ちになる。長かったようで短かったし、5年間お世話になった高専を旅立つのが寂しい反面、高専卒業後の新しい人生が楽しみでもある。きっと私だけではなく、今年度卒業を控えているほとんどが、そんな気持ちをそれぞれ抱いていることだと思う。

さて、今卒業のことを考えると、私は5年前の高専入学前を思い出す。私は小さい頃から機械が好きで、この福井高専の機械工学科に推薦入試で入学した。中学3年生の当時の私は、中学校で最初の合格者であり、夢の高専に入学できることをとても喜んでいた。あの頃は、私は高専でどんなことを学べるのか、どんな機械に会えるのかと楽しみにしていた。

そんな頃からはや5年。私は今度は4月から国立大学へ3年次編入学生として進学する。今もまた、あの頃のように、新たな大学生活を前に期待で胸を躍らせている。4月からも、今この初心を忘ることなく、新しい私の人生で自分らしく生きていきたいと思う。



## 卒業生クラス紹介

## 電気電子工学科



## 巣立ちゆく諸君へ

電気電子工学科5年担任 山 本 幸 男

何とかこの佳き日を迎えられて、担任として本当にホッとしています。

先日、東京に向かう新幹線の車内で「先生、お久しぶりです！」と声をかけられました。パリッとしたスーツを着たその声の主は、私が12年前に担任したクラスの卒業生S君。卒業式以来の再会でした。聞けば彼も関東へ出張とのこと。新横浜駅で彼が降りるまで、学生当時の思い出や現在の仕事のこと、そして今度子供が生まれることまで本当に楽しそうに近況を話してくれたのです。実は彼どちらかと言うと地味な学生だったこともあり、私に声をかけてくれたことにとても驚きました。そして何よりも、立派な社会人に成長してくれていたこと、本当に嬉しかったです。「この仕事をしていて良かったなあ」と実感した瞬間でした。

諸君、健康にはくれぐれも気を配ってくださいね。自分自身が選んだ道での活躍を心から応援しています。卒業、本当におめでとう。たまには元気な顔を母校に見せに来てください。いつでも歓迎します。

## 卒業を迎えて

電気電子工学科5年 前 田 梨 沙

入学から早5年が経ちました。入学したころは、5年間はとても長いイメージを持っていましたが、あっという間に過ぎてしまいました。この5年間を思い返すと、たくさんの思い出がありました。いろいろな学科が混合したクラスであった1年生。他学科の子とも仲を深めることができたと思います。学科ごとに分かれたクラスになった2年生。専門科目も増え、実験も始まりました。レポートを何回も突き返されていたのを思い出します。さらに専門も難しくなった3年生。研修旅行では海外に行き、何もかもが初めてで、良い経験ができました。また、自分の英語の未熟さも痛感しました。インターンシップを通し、将来について考えだした4年生。体育祭の応援も今ではとても楽しかった思い出です。そして、高専生活最後の5年生。就職活動を通して、優れた人について考えました。また、部活動の最後の高専大会は惜しくも負けてしまいましたが、とても楽しい試合ができました。

私は春から社会人です。高専で学んできたことを糧にし、立派な技術者になれるように励んでいきたいと思います。

## 卒業生クラス紹介

## 電子情報工学科



## 電子情報工学科24期生の皆さんへ

電子情報工学科5年担任 西 仁 司

卒業おめでとうございます。皆さんのがんできた電子情報の技術はここ数年（皆さんのがんんでいる間）で飛躍的に進歩しました。ドローンや車、ロボットなどの高度な制御が可能となり、3Dプリンタのような、「もの」を作り出す機械が誕生してきました。これに伴って「将来コンピュータに取つて代わられる仕事」という記事を目にすることになりました。センサで得られた情報を基に、ネットワーク上の膨大なデータを一瞬のうちに検索、統合し、必要な「もの」を具現化できるようになるので、スポーツの審判や弁護士助手といった職業までなくなってしまうというものです。かなり論理が飛躍している感もありますが、いずれにせよ、「人間がやるべきことは何か」ということが大事になっていきます。

卒業生の皆さん、これから人生を歩んでいく中で「自分にしかできないこと」を探してください。コンピュータはもちろんのこと、隣の人にもできること、それが皆さんを形作り、自分の存在そのものになります。皆さんの活躍を期待しています。

## 成長

電子情報工学科5年 河野 棟華

2EIとして1つのクラスに集まってから約4年（人によって誤差あり）、まとまらなさに関しては学年でも他の追随を許さない勢いであったように思う。2、3年時において先生に「このクラスは落ち着きがない」と言われた回数は両手両足の指で足りるのだろうか。高専祭の露店では、揚げパンを選んで後片付けの大変さを学び、翌年は反省を活かし飲み物を選んで、レモンと牛乳を混ぜると固形化することを学んだ。体育祭ではみんな頑張った。テスト前の勉強会では友人達が神様に見えたことも少なくない。学年が進むにつれて、遠慮がなくなっていくと共にクラス内の秩序も失われていった気もする。先生ごめんなさい。散々言ってきたが、成長は自分で評価するものでもない。客観的に見て成長できているのかが大切である。成長できてないという声もあるかもしれないが、まだ二十歳！伸びしろはあります。このクラスと共に培ってきた栄養は少なくない。あとは水だけで伸びる！また会ったらみんなで飲もう！



## 物質工学科

## 卒業生クラス紹介



### 「誇りを胸に」

物質工学科5年担任 佐々和洋

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが福井工業高等専門学校で過ごされてきた5年間という時間は、今、皆さんの中でどのように思い描かれているのでしょうか。日々の授業では、多岐にわたり基礎から専門にいたるまで非常に多くの知識を学ばれてきたと思います。毎週のように行われる実験実習の中では、同世代の人たちとは比べ物にならないほどの技術と経験を得られてきたと思います。クラブ活動をはじめとする課外活動や体育祭などの中で、勝利の喜びや敗北の悔しさをかみしめた人も多くいると思います。学内外で行われる様々な行事の中で、組織の中心としてリーダーシップを取ると言う大変貴重な体験をした人もいるでしょう。大きなことをしてこなかったと思う人も、高専の中で5年間を過ごすと言うことは、他の人々に比べ非常に濃密な生活を送ってきたのです。そして、決して楽ではない高専卒業という成果を達成されたのです。

この5年間というものは、今の皆さんを形作る上でとても多くの部分を占めており、今後皆さんが社会を生きて行く中で芯となる部分です。是非、これから的人生において、高専を卒業した自分に恥じることなく、豊かな人生を送られることを心より願います。

### 「5年間」

物質工学科5年 中山和也

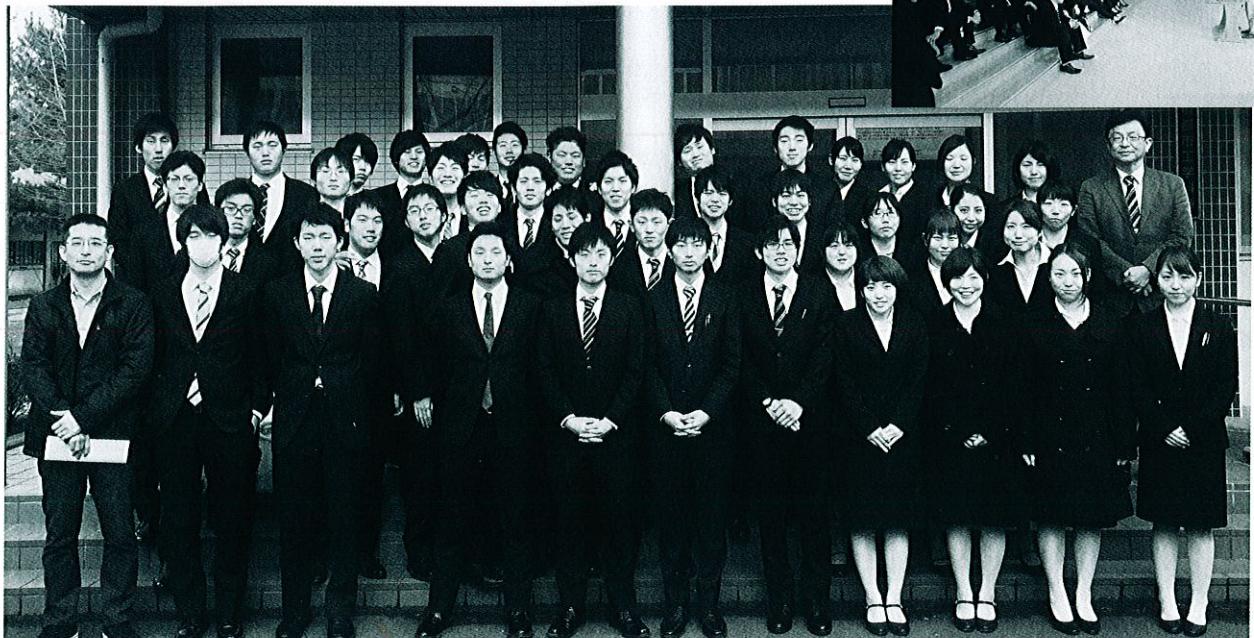
募る思いを膨らませて入学した福井高専。入学当時に5年生の姿を見たとき、自分はその背中を追いかけて成長していくのか、もしくは、目に見えた変化がないまま時間が経つのを過ごしていくのか考えていました。今、自分は直感で前者であると思いましたが、あっという間に5年間に感じ、成し遂げたことが数える程なので後者なんだと思いました。それくらいの短い学生生活でした。

5Cのことについて言うと、個性的なキャラの人たちばかりで集まるところがちゃらしてまとまりにくいクラスでした。しかし、このクラスは遠足、体育祭、修学旅行、バーベキューなどのイベント事になると一生懸命になったり、夢中になってパワー全開になったりして、とても面白いクラスでした。思いかえせばいい思い出ばかりです。

最後に、こんな起伏の激しいクラスの面倒を見て下さった、担任教員の佐々先生、物質工学科の先生方、そして、快適かつ楽しい学生生活を共に過ごした5Cのみんな、ありがとうございました。

## 卒業生クラス紹介

## 環境都市工学科



## 最後の連絡

環境都市工学科5年担任 奥 村 充 司

保護者の皆様におかれましては、御子息、御息女が無事本校を卒業されること心よりお喜び申し上げます。日々彼らと接し人生における多感な時期を共有できることは担任として感謝の気持ちに堪えません。昔と違い担任マニュアルに従って、様々な情報を学生に迅速・正確に伝えることに終始した気がします。これは高専の誇れる日本流近代教育システム成果です。極めると誰が担任しても同じ。SNSさえ操ればなんとかなる。しかし、担任の子供化、クラウド化を目指しましたが、残念ながら大事なのは日々の声かけと面談でした。さて、諸君の前途を心より祝福させて頂き、最後に一言。学校周辺で起きていることに気づいていますか？放水路が供用され、橋が架かる。普段何気なく見ている傍の用水路には四百年前の先人たちの心が流れている。県外で活躍する諸君！まず、その地域を歩いて、その歴史を学び、生まれ育った街との違いを知ることから始めてはどうだろう。

## 5年生のメッセージ

環境都市工学科5年 小笠原 優

僕たちが高専に入学して早5年、いよいよ卒業の時が近づいてきました。この5年間という長い時間の中で、楽しいこと、うれしいこと、様々なことがありました。それぞれの年を振り返っていくと、まず1年生では入学式から始まり、高専生活最初のイベントである新入生オリエンテーションでは長い時間を共にする仲間と親睦を深めることができました。2年生では現在のクラスメートと出会い、授業や実験の時間を共にしました。3年生では工場見学旅行へ行き、四国、九州を回りました。4年生では体育祭で準優勝を勝ち取り、みんなで喜びを分かち合いました。最後に5年生では就活、受験を乗り越え、自分たちそれぞれの進路を掴み取っていきました。

僕たちは高専生活という長い時間の中で、よく学び、よく遊び、たくさんの思い出を作ることができました。この5年間で得たものを大切にして、これからも未来を生きていきたいと思います。

## 修了生クラス紹介

## 生産システム工学専攻



## 専攻科修了おめでとうございます

生産システム工学専攻主任 芳賀正和

専攻科を修了されるみなさんとは、創造デザイン演習、大学院訪問、交流会など、一緒に楽しく充実した2年間を過ごすことができました。いつもみなさんの笑顔に助けられました。本当に感謝しております。

ところで、みなさんと接するときに私が特に意識したのは、自分でチェックする習慣を身に付けて頂くことです。優秀な人でもミスや見落としは仕方の無いことです。でも、セルフチェックをしてミスを外に出さないようにすることが肝心なのだと思います。心に余裕が無い時には、なかなか実行できないものですが、そのような時には深呼吸してため息についてみると良いかもしれません。

みなさんにとって、この2年間は、自分を確立するために、常に悩み、奮闘し、疲労と達成感を味わい続けていたことだと思います。入学時の自分と今の自分の姿を見比べると、芯が備わったように思えませんか。専攻科で学んだ「考える力」と「行動力」を実践し、「自分らしさ」を磨いて活躍されることを期待しております。

## 「専攻科で得たもの」

生産システム工学専攻2年 内山直弥

専攻科での2年間で私は多くのことを学ぶことができました。専攻科の特定の工学分野にとらわれない様々な講義では、幅広い工学分野の知識を吸収することができました。また、他学科の学生とのプレゼンテーションやグループ課題が充実し、自分とは異なる他分野の人の考えに触れる機会に恵まれていました。これらの知識や経験から専攻科では工学的な問題を多角的に考える力が身につきました。多角的に物事を考えることは複雑で変化のスピードの速いこれからの社会において大きな力になると考えています。また、このことは様々な学科の学生が集まる専攻科の環境だから得られるものであり、専攻科に進学したことは正解だったと思っています。

本科も含め、福井高専にいた7年間の日々は、楽しかったことや、大変だったことなど色々ありました。その全てが自分の成長につながっていると確信しています。そしてその7年間、私は福井高専で多くの先生方や友人に支えられてきました。そのすべての人に深く感謝いたします。

## 修了生クラス紹介

### 環境システム工学専攻



#### 卒業式

環境システム工学専攻主任 高 山 勝 己

これまで何度も修了生を見送ってきが、最近修了生に対する私の見方が特に変わりつつある。それは、皆さんの年齢に娘の年齢が近くなってきたためである。卒業式に来られるご両親（どちらかというと父親）のお気持ちがリアルにわかるからである。十数年間、自らを犠牲にし、一生懸命育て喜怒哀楽を共に歩んできた我が子が、小、中、高専と長い学びの期間を終え、今社会に羽ばたこうとしている姿に感動するのである。泣いてしまうのである。卒業式とは親にとって、大いなる喜びと、ほっとした気持ちと、いよいよ巣立っていってしまうという切ない思いが複雑に絡み合う一日なのである。

方や、皆さんはどうだろうか？やつと勉強から解放される！やつと親から独立できる？というように考へているのだろうか？いずれにせよ皆さんは新しいスタートにたち、希望に満ち溢れていることでしょう。人生は山あり谷あり。あなたが挫折し苦しい時はいつでも相談にのるよと両手を広げて待ってくれている存在がいることを忘れないで欲しい。卒業心からおめでとう。

#### 高専生活7年間を振り返って

環境システム工学専攻2年 田 邊 祐 真

7年間もの高専生活は、私にとって単に小学校よりも長いとか、私を大きく成長させたとか、そんな一言でまとめられるような日々では決してありませんでした。振り返れば、すべての記憶が今でも昨日の事の様に蘇ります。特に専攻科に入学してからの2年間は私の人生において激動の2年間でした。多くの事を学んだ特別研究、夢であった海外留学や海外発表、必死で勉強した公務員試験、友人達との楽しい日々、すべてがこれから私の武器であり財産です。思えば私は本科の頃からトラブルの多い学生で、度々先生方や学生課の方々そして両親や友人たちに迷惑をかけてばかりでした。しかし、こんな私を支えてくださった皆さんは素晴らしい方々ばかりで、常々私は出会いや人に恵まれていると実感しています。「感謝」この一言でこの高専生活を締めくくることが出来る私は幸せ者だと思います。7年間本当にありがとうございました。

## 各学科卒業研究・指導教員紹介

## 平成27年度 学科別卒業研究・指導教員一覧

## 機械工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青柳亮汰	品質工学を用いたコア材形状の最適化	五味伸之
新谷雅浩	高精度R曲げ加工を目指した摩擦援用曲げ加工に関する研究	村中貴幸
石橋健太	品質工学を用いたコア材形状の最適化	五味伸之
上木裕友	ナノインデンテーション法による摩擦表層の硬さ測定	加藤寛敬
海道智也	押付摺動試験によるチタン材の焼付き評価	村中貴幸
門大介	水田用除草ロボットの除草・走行性能試験と稻の育成への影響調査および改良	亀山建太郎
加納龍一	水田用除草ロボットの誘導シミュレーション	亀山建太郎
河元和輝	メカニカルシールへの流体潤滑理論の適用について	田中嘉津彦
北崎友哉	MTシステムを用いたサイン認証の基礎研究	五味伸之
幸山大輝	ナノ構造付与工具によるエンドミル加工時の切削状態の推定	千徳英介
小浪文太	ステンレス鋼室化層の耐食性に与えるフェムト秒レーザー照射及びDLC被覆の効果	安丸尚樹
清水彗太郎	フェムト秒レーザーが照射されたDLCのナノアブレーション特性	安丸尚樹
清水雄太朗	3Dプリンターによる企業と連携した閑管型笛の製作	安丸尚樹
菅原泰晴	レーザフォーミング加工におけるパルス発振の影響	千徳英介
竹内裕人	鋼の摩擦表層の組織と硬さに及ぼす炭素量と摩擦条件の影響	加藤寛敬
田中浩貴	メカニカルシールへの流体潤滑理論の適用について	田中嘉津彦
田畠翔大	自然対流熱伝達の可視化実験	芳賀正和
爲沢祥太郎	自然対流熱伝達の数値解析	芳賀正和
告吉隆太	押付摺動試験によるチタン材の焼付き評価	村中貴幸
角鹿拓哉	鋼の摩擦表層の組織と硬さに及ぼす炭素量と摩擦条件の影響	加藤寛敬
友広智	ディスクフリクション仮燃における加燃・解燃に関する基礎研究	金田直人
中西郁央理	ナノ液滴における表面張力の微視的数値解析	芳賀正和
中山恋	ナノ構造付与工具によるエンドミル加工時の切削状態の推定	千徳英介
橋本知明	ArduinoとScilabを用いた移動ロボットの制御系の開発	亀山建太郎
橋本優花	マルチエージェントシミュレーションを用いた避難経路シミュレーションの最適化	五味伸之
彦野広樹	分子動力学法による表面張力の微視的数値解析	芳賀正和
古川裕士	仮燃加工法における加燃工程中の糸形状評価	金田直人
堀内慎司	レーザフォーミング加工におけるパルス発振の影響	千徳英介
堀田岳	硬質薄膜の水・油滴下中における摩擦摩耗特性	安丸尚樹
松村修祐	キャビティを有する流路を通る高分子溶液の流れの可視化とPIV計測	藤田克志
水上裕太	ディスクフリクション仮燃における加燃・解燃に関する基礎研究	金田直人
水野優	容積型液圧機器におけるピストン形状による摩擦特性への影響	田中嘉津彦
三田村春輝	高精度R曲げ加工を目指した摩擦援用曲げ加工に関する研究	村中貴幸
道下結太	キャビティを有する流路を通る高分子溶液の流れの可視化とPIV計測	藤田克志
山下航平	高圧ねじり(HPT)加工した炭素鋼の組織と摩耗特性	加藤寛敬
山田佳孝	水田用除草ロボットの除草・走行性能試験と稻の育成への影響調査および改良	亀山建太郎
吉川哲也	仮燃加工法における加燃工程中の糸形状評価	金田直人
吉田圭甫	縦型水車の製作と設置に関する研究	藤田克志
MOHD AIZAT SHAFIQ BIN SUDIN	高圧ねじり(HPT)加工した炭素鋼の組織と摩耗特性	加藤寛敬

## 電気電子工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
阿路川雄介	高真空中におけるガス流量の精密制御に関する研究	山本幸男
池内 港	真空蒸着法によるCuAlS <sub>2</sub> 薄膜の作製と評価に関する研究	山本幸男
石黒稚可子	真空蒸着法によるGa <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 薄膜の作製に関する研究	山本幸男
石丸涼平	RFスパッタ法により作製したMo/CuInS <sub>2</sub> /ZnO薄膜のXPS解析	山本幸男
井関泰士	放射線出用波形整形回路及びArduinoによるパルス計測回路の製作	米田知晃
伊藤嘉崇	倒立二輪車のスライディングモード制御	山本幸男
岡本克哉	RAPIROを用いた画像認識と遠隔操作の導入研究	丸山晃生
加藤誠也	集積化テラヘルツヘテロダイーン検波器の高感度化に関する研究	堀川隼世
北野遼太郎	遠隔操作による電気自動車の運転	丸山晃生
黒田喬介	コンクリート蒸気養生用温度制御装置に関する研究	佐藤匡
五島雅人	レベル制御を用いたリニアレーアンテナの等サイドローブ指向性の解析	大久保茂
古村晃洋	GM管を用いた簡易放射線検出器の製作	米田知晃
坂直幸	太陽電池応用を意図したナノ粒子作製と評価	西城理志
新谷俊樹	CsI(Tl)シンチレータとPINフォトダイオードを用いた放射線検出器の作製	米田知晃
関健吾	ゼロサムゲームに対するゲーム木探索アルゴリズムの適用	丸山晃生
千歩裕和	六足歩行ロボットの動作制御に関する研究	佐藤匡
高村拓行	離散有限個の入力によるDCモーター制御	佐藤匡
竹内七海	階層型ニューラルネットワークを用いた空間手書きひらがな文字の認識	丸山晃生
竹内暢孝	陸上用不正スタート発見装置の試作	荒川正和
龍野悠真	in situ 実験用小型ライントレースマシンの試作	佐藤匡
塚崎京介	ナイロンを用いた人工筋肉の特性の評価	荒川正和
辻井裕貴	色素増感太陽電池のプロセス及び構造変化に応する光電変換効率の向上	西城理志
中道尚也	超音波センサーを用いた陸上競技用タイム測定装置の製作	荒川正和
中谷謙斗	協調行動を行うRoboCupサッカーエージェントの開発	河原林友美
中山翼	フォルマント周波数を考慮した周波数スペクトルの変形による母音変換	荒川正和
西前勇太	ジョセフ接合を用いた力オス発生条件の研究	堀川隼世
福嶋宏之	ミストCVD装置の立ち上げ及びSショットキーダイオードの作製・評価	米田知晃
藤原健	レスキューロボット操作用ユーザーインターフェースの開発	河原林友美
前川華歩	真空蒸着法によるAgInS <sub>2</sub> 薄膜の作製に関する研究	山本幸男
前田梨沙	遺伝的アルゴリズムを用いたアレーアンテナの給電位相回路の簡略化	大久保茂
道本健央	壁面貼り付け型ノイズキャンセラーの開発	荒川正和
三家景亮	スマートフォンを用いた災害時情報収集をサポートするI-systemの活用	大久保茂
宮川峻	後続車に感謝を伝えるサンキューランプの開発及び実施試験	河原林友美
三宅潤	Androidを用いた学生掲示板のアプリケーション開発	大久保茂
山口侑大	飛翔体制御のための基礎検討	佐藤匡
山下誠人	位置情報機能を利用した消防団支援のアプリケーション開発	大久保茂
山田真士	呼びかけに応じて音量調整を行う音楽再生Applicationの開発	河原林友美
山本嶽太	地域活性化アプリの開発	河原林友美
吉村淳也	観光情報を地図上にマッピングするアプリケーションの開発	河原林友美
吉村洋輝	USBカメラ搭載小型車両型ロボットの開発	丸山晃生

## 各学科卒業研究・指導教員紹介

### 電子情報工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
安達文哉	Raspberry Piを用いたマルチコプターの開発	村田知也
岩崎琢真 響	電化道路の電極形状が電力伝送効率へ与える影響	川上由紀
岩堀仁紀	高齢者にむけたみまもりシステムの提案	青山義弘
梅田幹人	使いやすいBMI(Brain Machine Interface)システム開発のための脳波の判別方法の検討	小越咲子
金子颯太	Raspberry Piによる監視システムの開発	高久有一
金巻功祐	【コンピュータ囲碁】UCBの係数の研究	村田知也
上出浩夢	三次元水柱崩壊のシミュレーション	下條雅史
河野榛華	鰐江断層におけるS波偏向異方性 - パーティクルモーションによる解析 -	野村保之
小寺遼太郎	色彩が体感時間・集中力に与える影響	小松貴大
古和泰志	脳波を用いた快・不快状態のマッピングに関する研究	小松貴大
酒井大樹	意思表示アプリケーションの開発	村田知也
澤田宏人	自律三輪トライク型ロボットの走行制御プログラムの開発	青山義弘
椎林風花	無線電力伝送におけるコイルの配置方法が送電効率に与える影響	川上由紀
袖川瑞	旧式PCの教育利用を目指したOneUSBの研究	斎藤徹
高木悠	FM一括変換における復調回路の伝送特性の解析	西仁司
高橋摩也	陽解法によるミルククラウン生成シミュレーション	下條雅史
田中涼	長軸回転構円体形状の磁場反転配位における荷電粒子の運動	野村保之
民谷慎一郎	Chromecastを使った掲示板システムの開発	斎藤徹
千葉大輝	RFIDを用いた屋内用位置情報検出システムの作成	高久有一
告吉悠	発達障害に配慮したコミュニケーション能力向上アプリケーションの開発	小越咲子
出口風人	エビングハウス錯視における膨張・収縮色の影響	小松貴大
中内文也	FDM信号の非線形歪のシミュレーションとその評価	西仁司
仲倉陵太	Raspberry pi2を用いた小型移動体向け人物追跡システム	青山義弘
中沢一貴	陽に遅延を取り入れた最適速度模型による渋滞の数値解析	野村保之
野村信吾	QRコードを用いた屋内用位置情報検出システムの作成	高久有一
畠中達也	OculusRiftとLeapMotionを用いた育児シミュレーション	村田知也
廣島健亮	室内飛行ロボットの自動制御	高久有一
藤田清司郎	シリカガラスの失透メカニズムの研究	野村保之
堀江龍太	Raspberry piによる室内的監視カメラ	青山義弘
前田倫也	SPH粒子法とCUDAを用いた銀河系の運動シミュレーション	下條雅史
前田祐太	放射線教育のための学生実験用教材の開発	野村保之
松並英明	FDM信号における非線形歪の解析	西仁司
眞名垣優愛子	睡眠時脳波を用いたBMI枕開発のための基礎研究	小越咲子
宮澤圭太	RFIDリーダライタアンテナの通信距離向上に関する研究	川上由紀
村上咲紀	ADHDの子供のための「見守りランドセル」の開発	小越咲子
山下隼人	Raspberry Piによる行列計算用分散処理システムの開発	斎藤徹
山田祥平	動物型4足歩行ロボットの歩容の生成とその評価	西仁司

### 物質工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
有吉輝 木村康誠	芽胞菌生産物の生体材料特性評価	川村敏之
桂田康平	Z-Feをモデルとした酵母細胞表層提示によるタンパク質間相互作用検出	上島晃智
家山仁志	側鎖に硫黄を有するピラジン置換フタロシアニンの合成	松井栄樹
河内直輝 堀川裕未	化学工学実験における蒸留実験の導入プロジェクト	加藤敏
川尻恵	土壤の有機物含有量に対するセシウムの吸着性	小泉貞之
北嶋彩乃 八田文菜	還元活性化された酸素分子によるシクロヘキセンの酸化に対する電子メディエータの影響	津田良弘
中山和也 前田樹良	還元活性化された酸素分子によるシクロヘキセンの酸化に対するMnボルフィリンとBr <sup>-</sup> イオンの影響	津田良弘
北代祐椰	土壤中の有機物含有量測定及びその官能基の簡易分析法の評価	小泉貞之
酒井七海	非経験的分子軌道計算によるDPCの最安定構造と原子電荷分布の解析	佐々和洋
坂下郁子	ミドリムシの純粹培養と光合成阻害物質検出法の検討	上島晃智
杉本卓哉 玉村健太郎	フミン酸に対するCs <sup>+</sup> とSr <sup>2+</sup> の吸着性	後反克典
高山暁生	土壤からのバニリン・シリンガアルデヒド分解菌のスクリーニング	上島晃智
塙谷真梨奈	アクチュエータへの応用を目指したナノファイバー駆動システムの開発	坂元知里
辻大介	ショットテンパウマン反応による水溶性多糖類のアシル化	松井栄樹
寺内蘭樹	硝酸銀水溶液からの構造規制銀の合成	西野純一
飛奈優花	酵素表層発現酵母を用いた有機リン農薬バイオセンサーの開発	高山勝己
上村葉月	芽胞菌の環境適応過程で生産する生理活性物質と適応機構の解明	川村敏之
檜鼻巴珠希	近接気化型CVD法による銅担持酸化チタン膜の合成	西野純一
廣部綾乃	Rubrobacter xylanophilus 由来のRxDAOを用いたD-パリンセンサーの構築	高山勝己
藤本未香	バイオデバイス基板に応用可能なカーボン材料の親水化法の確立	坂元知里
三井翔太	硫化スズの電解析出	西野純一
南嶋由枝 DARMAWAN RIZKI	新規めつきプロセスによるLSI多層配線形成技術に関する基礎研究	常光幸美
宮谷志保	画像処理による微小生物の挙動解析	平井恵子
山田克樹	T.longibrachiatum KFA-2とA.niger KT-10によるセルラーゼ生産とその応用	高山勝己
大久保元晴 吉田和裕機	分子動力学法によるDPCミセルの解析	佐々和洋
渡邊栄	植生に及ぼす土壤中の窒素・リンの測定	後反克典

### 環境都市工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
五十嵐春希	熱交換塗料の効果に関する研究	田安正茂
石坂孝佑	ウェブカメラを用いた夜間でも使用可能な斜面崩壊検知システムの開発	辻野和彦
岩間亮友	足羽川の水面利用施設の土砂堆積軽減に関する研究	田安正茂
宇佐美怜志	鰐江市における文化財建造物の地震災害危険度の調査	吉田雅穂
大塚慎也	黄鉄鉱を含む中性土の化学的性質に関する一考察	山田幹雄
小笠原 優	福井県の自主防災組織の結成率に関する研究	江本晃美
岡田拓樹	黄鉄鉱を含む中性土の化学的性質に関する一考察	山田幹雄

## 各学科卒業研究・専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介

## 平成27年度 専攻科 特別研究テーマ・指導教員一覧

### 生産システム工学専攻

氏名	卒研テーマ	指導教員
加藤黛花	UAVを用いた掘削工事における土量の推定	辻野和彦
加藤桃子	高濃度硝酸性窒素汚濁河川を対象にした藻類増殖ボテンシャル試験法の検討	奥村充司
川端祐輝	排水機能付き丸太を用いた戸建住宅の液状化対策に関する模型振動研究	吉田雅穂
小鍛治聰	パッシブリモートセンシングによる土の締固め度評価	辻子裕二
島田瑛実香	黄鉄鉱を含む中性土の化学的性質に関する一考察	山田幹雄
高嶋秀樹	熱交換塗料の効果に関する研究	田安正茂
高島瑞貴	人口減社会における水道ビジョン改定と水道事業持続のための住民意識調査法の提案	奥村充司
高田康平	北潟湖の塩分濃度分布特性に関する調査	奥村充司
高田和佳菜	潜在自然植生植栽の目標達成評価と循環型植栽モデルの構築	武井幸久
高橋青波	鉄骨立体トラスによる構造物の基礎に関する研究	樋口直也
田中幹	三里浜海岸の波高による汀線変化について	田安正茂
塙本湧正	既設戸建住宅を対象とした丸太を用いた液状化対策に関する模型振動研究	吉田雅穂
坪井俊樹	アーチの座屈に関する研究	樋口直也
坪川貴太	地下防火水槽の継続使用の可否判定に関する研究	辻野和彦
堂山翔平	北潟湖の塩分濃度分布特性に関する調査	奥村充司
鳥居あすか	240-flexible layer-	江本晃美
中井悠仁	Fukui発掘Project	江本晃美
中島真名	人口減社会における水道ビジョン改定と水道事業持続のための住民意識調査法の提案	奥村充司
西川貴志	夜間の避難判断に資するパッシブリモートセンシング	辻子裕二
野中貴広	空撮画像から作製した3Dモデルの精度検証	辻野和彦
橋本芹菜	碎石とジオシンセティックスを用いた道路盛土の液状化対策に関する模型振動研究	吉田雅穂
瀬川ひかり	三里浜海岸の波高による汀線変化について	田安正茂
福嶋彩乃	熱交換塗料の効果に関する研究	田安正茂
船野竣太	道路舗装のひび割れ率の算定に関する研究	辻野和彦
本谷嶮	木質バイオマスを中心としたエネルギー循環型社会の構築	武井幸久
水本翔大	橋梁点検ができる技術者を育成するためのe-learningシステム開発	阿部孝弘
宮下晟弥	単純街区モデルにおける大気安定度に関する実験的研究	田安正茂
村上達哉	足羽川の水面利用施設の土砂堆積軽減に関する研究	田安正茂
村上凌	黄鉄鉱を含む中性土の化学的性質に関する一考察	山田幹雄
山内佑太	単純街区モデルにおける大気安定度に関する実験的研究	田安正茂
山口恭平	VIVID URBAN -未来の健康システムの提案-	江本晃美
山下茉莉	衛星画像による緑被再生プロセス評価の有効性についての研究 -岐阜県林野火災を事例に-	辻子裕二
山田裕正	地域の原子力防災学習に資する教材開発	辻子裕二
山本武	持続可能な交流生活圏の再構築-Boomburb化からの脱却-	武井幸久
山本悠哉	橋梁点検ができる技術者を育成するためのe-learningシステム開発	阿部孝弘
吉田莉菜	高濃度硝酸性窒素汚濁河川を対象にした藻類増殖ボテンシャル試験法の検討	奥村充司

### 環境システム工学専攻

氏名	特研テーマ	指導教員
五十島康平	丸太に特殊機能を付加した液状化対策技術の高精度に関する研究	吉田雅穂
川島尚大	イオン液体によるバガスの酵素糖化前処理条件の最適化	高山勝己
北代彩櫻	外部配位サイトを有するフタロシアニンの合成とその金属配位特性	松井栄樹
坂川緋梨	ウェットプロセスによるシリコンインター層形成技術開発に関する研究	常光幸美
澤田直也	UAVを用いた河床形状の計測に関する研究	辻野和彦
梶本陽介	KANAKOを用いた人口集中地区における土石流到達範囲の推定	辻子裕二
高木彩加	加工貝殻粉末を用いた環境浄化剤の開発	小泉貞之
田邊祐真	足羽川の水面利用施設の土砂堆積軽減に関する施設案の検討	田安正茂
田谷修人	熱画像カメラを用いた土の締固め度評価の可能性について	辻子裕二
松浦和也	酵素表層発現酵母を用いた有害な有機リン農薬バイオセンサーの開発についての検討	高山勝己
松本勇太	単純街区における換気性状に関する研究-大気安定度が流れ場に与える影響に関するCFD解析-	田安正茂
見寺勇人	ウェブカメラを用いた斜面崩壊検知システムの開発	辻野和彦
村中健彦	pH値の異なる黄鉄鉱含有土におけるスレーキング特性および力学的性質の比較	山田幹雄
吉田竜二	ショッテンパウマン反応による水溶性高分子変換とその応用	松井栄樹

## 学生の将来と進路

### 平成27年度 進路内定状況報告

本科生の進路は、ここ数年は60%前後(昨年59.4%)だった。今年度は64%となって、就職希望者が増えたが、現4年生の進路希望調査では、就職希望の割合が全体の6割程度となっており、この傾向は今後も継続すると考えられる。

さて今年度の本校の就職状況については、倫理憲章の変更により、就活時期とその結果に大きな影響があるのではないかと、懸念された。しかし、一部の大手企業を除くと、事実上の広報採用活動に変更是少なく、結果として、全体の求人数は12月末の段階で、2年前が述べ3309、そして昨年度および今年度は3983、県内企業でも、昨年が331、本年が412、求人倍率も、本科で約25倍、専攻科で約50倍となり、リーマンショック前の水準を上回って、内定率もほぼ100%となった。

求人の増加の背景には、政府による対策や新興国の経済成長、外国人観光客の増加などの経済環境の変化の他、企業から、団塊の世代退職後の技術継承のため、実践的な技術者教育を受けた高専生が期待されていることも関係している。しかし、経済がグローバル化し、世界各地で起こる政治、軍事、経済上の事象や自然災害などの影響が短時間で世界を駆け巡るようになって、企業は、様々な状況の変化に柔軟に対応できる、優秀な人材を求めている。そのため、求人倍率が増加しても、全ての学生の早期の就職の内々定に繋がっているわけではない。特に自己PRの内容が乏しく、コミュニケーション力が弱い学生が苦戦する状況は変化していない。さらに、

キャリア支援委員会委員長 下條 雅史

来年度も、経団連加盟の大企業への就職について、広報活動の始期は同じものの、採用活動の時期が6月からと早くなり、企業情報の入手の期間が短くなる懸念がある。従って、就職を希望する学生は、早期から、自分の希望に応じた企業、業界を研究して、戦略を練る必要がある。

進学に関しては、大学編入学は昨年(43名)より若干減って40名、専攻科進学者は昨年の26名とほぼ同じ25名であった。卒業予定者の増加もあり、進学者の割合は、昨年の41%から35%となった。主な合格大学は、昨年と同様の福井大、豊橋技科大、金沢大、長岡技科大、に加え、一般的に難関と言われる大阪大にも1名合格している。

本校は、低学年からのキャリア教育として、様々な講演会や高学年、専攻科学生による先輩フォーラムなどを、高学年には、合同企業説明会、大学・大学院合同説明会、携帯等で検索可能な進路支援システムなどによる情報提供など、他高専に先駆けた取り組みを推進している。これらの行事、手段を通じて、多くの情報を集めて、自己実現に向けての最良の道を探るとともに、遠い将来に渡る自己の目標を立てて努力を重ね、得られた成果については、それをポートフォリオとして、記録に留めていただきたい。

最後に学生の進路指導にご尽力された関係教職員のみなさまに、深く敬意を表しますとともに厚く御礼申し上げます。

### 平成27年度 進路内定状況

平成28年3月10日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進学 希望者数	内定者数		未定 者数	就職 希望者数	内定者数		未定 者数	その他	
				大学・大学院	専攻科			県内	県外			
本 科	機械工学科	39 (1)	16 (1)	9 (1)	6	1	0	22	6	16	0	1
	電気電子工学科	40 (4)	14 (1)	8 (1)	6	0	0	24 (3)	6	18 (3)	0	2
	電子情報工学科	37 (5)	12	11	1	0	0	25 (5)	14 (3)	11 (2)	0	0
	物質工学科	33 (17)	15 (5)	7 (2)	8 (3)	0	0	17 (12)	10 (5)	7 (7)	0	1
	環境都市工学科	43 (14)	10 (2)	5 (1)	4	1 (1)	0	32 (12)	11 (6)	21 (6)	0	1
	小計	192 (41)	67 (9)	40 (5)	25 (3)	2 (1)	0	120 (32)	47 (14)	73 (18)	0	5
専 攻 科	生産システム工学専攻	12	3	3		0	0	8	5	3	0	1
	環境システム工学専攻	14 (3)	2	2		0	0	12 (3)	6 (2)	6 (1)	0	0
	小計	26 (3)	5	5		0	0	20 (3)	11 (2)	9 (1)	0	1
合 計		218 (44)	72 (9)	45 (5)	25 (3)	2 (1)	0	140 (35)	58 (16)	82 (19)	0	6

※表中の( )は女子数で内数

## 学生の将来と進路

### 平成27年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

平成28年2月15日現在

大学等	学部等	学科		機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		合 計	
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
千葉大学	工 学 部	1												1	
東京農工大学	工 学 部		1						1					1	1
金沢大学	理 工 学 域	1		1				2						2	2
福井大学	工 学 部	4(1)		1	3	2	7			1			1	7(1)	12
岐阜大学	工 学 部									1(1)					1(1)
名古屋工業大学	工 学 部		1							1(1)					2(1)
三重大学	工 学 部												1		1
豊橋技術科学大学	工 学 部	1	1	1	1	1	2	1(1)	4(1)	2(1)	2	6(2)		10(1)	
大阪大学	工 学 部				1										1
奈良女子大学	工 学 部			1(1)											1(1)
香川大学	工 学 部	1												1	
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6		5	1	1	1							12	2
	環境システム工学専攻								8(3)		4	1(1)	12(3)	1(1)	
合 計		14(1)	3	9(1)	6	4	12	10(4)	7(3)	6(1)	5(1)	43(7)	33(4)		

※表における合格者数は延べ人数を表す。( )は女子で内数。

### 平成27年度 大学院入学試験合格状況

平成28年2月15日現在

専 攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合 計	
	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
福井大学 大学院	1				1	
名古屋工業大学 大学院	1				1	
北陸先端科学技術大学院大学	1				1	
金沢大学 大学院			1		1	
豊橋技術科学大学 大学院				1		1
合 計	3		1	1	4	1

※表における合格者数は延べ人数を表す。( )は女子で内数。



## 活躍する仲間

### 平成27年度ふくい理数グランプリに参加して

#### ふくい理数グランプリに参加して

2B 檜木泰宏

理数グランプリ物理部門に参加して、僕は人を引き付けるプレゼンテーションが、いかに大事なのかを実感しました。

僕たちのグループのメンバーは、物理が得意という訳ではなく、最初は予選突破を目標に頑張りました。そして、勉強して培った知識を十分に生かして予選を突破し、本選に進むことができました。しかし、本選の相手は藤島、高志、武生などの強豪が勢ぞろいで、発表のための実験の内容の濃さや正確さで勝つのは無理だと思いました。だから、少しでも僕たちの発表が聞いている人の記憶に残るように、分かりやすくインパクトのある発表にしようと心がけました。

だけど、僕たちは発表でも、強豪チームに歯が立ちませんでした。僕たちは自分たちの意見を主張することだけで精一杯で、分かりやすくしようと思っていたのに、そうすることができませんでした。しかし、強豪チームは僕たちでも発表できるような内容で、とても聴きやすく、誰もが納得できるようなプレゼンテーションをしていました。

高専生にとってプレゼンテーションとは、もはやなくてはならない存在であり、課題や実験の成果は全てこれによって、他の人に評価されると言っても過言ではないと思います。だから、良い結果が出せたらそれを他の人に十分に伝えられるようにしなければいけないし、もし良い結果が出せなかつたとしても、自分の頑張りを他の人に理解してもらえるようなプレゼンテーションにしなければいけないといました。グランプリでそれができなかつたのが残念です。

今回、理数グランプリに参加したという経験は、僕にとって大きな進展になったと思います。この経験を、これから学校生活に生かせられるように努力したいです。

(参加メンバー 2M 松田英孝、2C 澤田昂佑、2B 檜木泰宏)

### 第9回GPS・QZSSロボットカーコンテスト(ダブルパイロンレース)に参加して

#### 初出場そして次へ

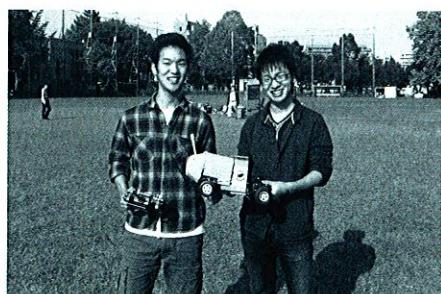
4E 牛若光太

私たちは平成27年10月24日に東京海洋大学で開催されたGPS・QZSSロボットカーコンテストに初参加しました。この大会は衛星からの位置情報取得によるロボットカーの自律走行制御を行うことによる技術の修得、交流を趣旨とした大会です。その中でも、今回私たちは、指定された2点をハの字に自律走行で周回する速さと正確さを競う、ダブルパイロン部門に参加しました。

5月頃に大会の参加を決め、それから約半年の開発期間、自立走行のシステムを組み上げるのに多くの試行錯誤を繰り返しました。そのため、開発期間の大半を費しました。初めて自律走行での周回に成功した時はとても嬉しかったです。残りの大会までの期間は、すべて車体の整備と走行テストによる微調整に注ぎ、大会当日を迎えました。

大会の日は雲がほとんどない晴天で、競技を行なうには絶好の日でした。しかし私たちの製作した車体は絶好調ではありませんでした。大会前の試走の時にトラブルが発生したのです。焦りました。ですが諦めることはできません。大会が始まる直前まで微調整を行い、その場の機転でプログラムを直しながらとかトラブルを乗り越えました。そして競技本番、私たちの車体はモーターの力を最大限に発揮した速度と圧倒的な正確性で自律走行を行うことができました。結果、その部門で優勝を飾ることができました。その瞬間、私たちは諸手を挙げて大喜びしました。

この大会への出場は福井高専では初めてのことだったので培ってきたものが何もありませんでした。しかし今回のことで新しいバトンを作り出すことができたと思います。このバトンを落とさず、次に繋げていきたいです。



## 活躍する仲間

### 第7回IIBCエッセイコンテストに参加して

#### IIBCエッセイコンテストに参加して

3EI 三田 竜大

エッセイのテーマは「身近な異文化」だったので、主にアメリカに住んでいたころに感じた教育方法の違いについて書くことにしました。例えばアメリカでは結果が芳しくなくとも子供を褒めることが多かった。いわゆる褒めて伸ばす教育法だったのに対して、日本では結果が良くても小さなミスを指摘したりすることが多かった。いわゆる叱って伸ばす教育方法だと感じた。この二つの教育方法は同じ子供の成長を目的としているのになぜそうするための手段が真逆なのだろうかという疑問を自分なりにエッセイでは解釈してみました。

それが評価され、エッセイコンテストでは最優秀賞を受賞することができました。そして11月に、エッセイコンテストの表彰式に出席してきました。この時、講評で英語のレベルの高さを褒められただけではなく、エッセイそのものの構成を評価されたのが何よりもうれしかったです。難しい英単語や洒落ている言い回しではなく、エッセイ全体や構成とまとめの部分でいかに自分の意見を伝えられるかが大切だと気付くことができました。

英語の担任にエッセイコンテストに参加することを勧められて、始めはあまり気乗りしませんでしたが今となってはあの時応募しておいて本当に良かったと心から思っています。

7月末に勧められて夏休みの間に時間がたまたまあったので書いてみました。もし、あの時何もせずにだらだらしていたら物凄く後悔していたと思います。このようにチャンスはどこに転がっているか全くわかりません。しかし、こういったチャンスをいかにモノにするかが大切だと痛感することができました。



### 第12回全国デザインコンペティションに参加して

#### 「恐竜魂を全国に」

3B 山 貴 緋 称

私たちは、2015年11月14日～15日、全国高等専門学校デザインコンペティション2015 in 紀の国わかやま 構造デザイン部門に福井高専代表として参加しました。内容は支間長900mmで単純支持形式のメタルブリッジの作製でした。

環境都市工学科・機械工学科の1・3年生で編成されたチームNKNKは、全員がデザコン初挑戦でした。しかも、材料は従来の木材ではなく銅線とハンダで、まず銅線の加工方法を模索する必要があり、金属を扱う企業の方や先生方に相談したり、夏休みも毎日のように工作室に集まったりして構造部材の作製に取り組みました。最初ははんだごてでハンダを溶かし銅線を接着していましたが、部材が太くなるにつれ熱が逃げ、高熱ドライヤーでも間に合わなくななり最終的にはガスバーナーを用いて何本も束にしたハンダを銅線が入った型に流し込みました。また、直線状にするため銅線の一端を固定し、片方をインパクトで回転させながら引っ張る方法も発見するなど毎日が大きな進歩でした。しかし銅線とハンダは高価で、予想していた以上に扱いづらく、レギュレーションをクリアした最大荷重の60kgに耐える橋が完成したのは出発前日の夜中でした。

1日目は、「恐竜魂（ダイナソウル）」と称した橋の恐竜のような外観が他高専の学生・先生に高評価で、プレゼンによる審査員評価も高得点でした。2日目の耐荷試験では最大荷重に耐えましたが、思った通りに軽量化できなかったために最終結果は55チーム中17位でした。

今回の活動で、普段の講義や専門外のことも学ぶ大切さが分かりました。最後まで協力してくださったメンバー、先生方、家族への感謝の気持ちを忘れず、また来年度のデザコンにも参加して、上位入賞を目指したいです。



## 活躍する仲間

### 第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加して

#### 福井から初出場で2位! ---Water We Can Use---

5B 高嶋秀樹

昨年6月某日、英語特講担当の吉田先生から「全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出てみないかい? クーパー先生も薦めているよ」と誘われて、3EI三田君、3C木下さんとでチームを結成しました。夏休みからは「水資源の現状と未来」をテーマとして原稿をまとめ、必死の練習でなんとか締め切り内に予選ビデオ審査に提出、福井から初の全国大会出場を勝ち取りました。

後期中間試験後にはクーパー先生も本格的に指導に加わり、本選に向けて再スタートしました。さすが英語ネイティブの先生、原稿修正のアドバイスも的確。さらに発音の仕方や抑揚の付け方など、いろいろと指導していただきました。3人揃うのも大変な時期でしたが、夕方や土日にも集まって発表の練習を積みました。しかし、何回やっても新たな修正点が見つかり、なかなか完成形とはなりません。期待と不安を抱きながら東京へ向かい、現地についてもずっと練習、練習で細かな修正を入れながら、発表前夜になってようやく納得のいく最終原稿が完成しました。

本番当日、大勢の観客の前での発表では緊張したものの大好きなミスもなく、練習の成果を十分に發揮できました。結果は惜しくも1位と1点差で2位。それでも構成点は満点、チームワークも最高点で、特別賞として日本工業英語協会会長賞もいただくことができました。

この数か月間、失敗と苦労の連続ながらも、3人の英語プレゼンというパフォーマンスで成功できたことは、英語の楽しさとチームワークの重要性を再確認する機会となりました。ここまでこられたのは、吉田先生、クーパー先生の熱心なご指導と、三田君、木下さんという素晴らしいメンバーのおかげだと思います。卒業を前にこのような素晴らしい経験ができ、感謝の気持ちで一杯です。



### 2015年少林寺拳法全国大会 in KYOTO

#### 全国大会 in KYOTOに出場して

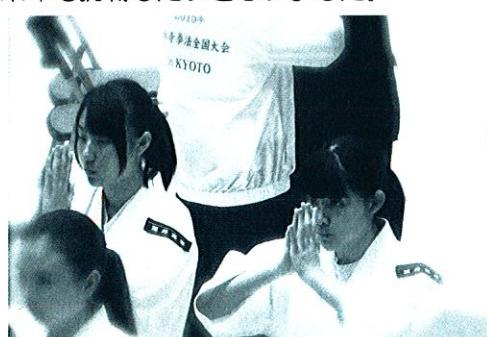
2B 小島 亜素佳

私は、2人の部活の先輩と1人の同輩と、2015年少林寺拳法全国大会 in KYOTOに出場しました。ここ数年は、全国大会に繋がらない種目で出ていたので、高専に来て始めて、小林さんと組み、高校生女子組演武の部に挑戦しました。数ヶ月練習して、思うように体が動かないこともありましたが、予選を突破し、全国大会へ行けることになった時は、本当に嬉しかったです。

しかし、全国大会はレベルが高いことを夏の総合体育大会などで知っていたので、まず演武の構成を1から考えました。自分達が使用してもいい技を、パズルのように組み合わせた演武を作るのは大変でした。けれど、たまに大会で耳にする道場の先生が作った演武をやるだけより、ずっと自分達で決めた演武の方が、心を込めてやれると私は信じていたので、二週間前くらいにやっと、自分達だけの演武ができました。

会場に入ると、威勢のいい気合いが聞こえてきました。それを聞いて、やる気が湧き上るのを心臓の奥に感じられました。昔の道場で一緒だった先生や、知ってる人に会うと元気がでましたし、前の大会で見かけたことのある人を見ると、心が引き締まりました。

迎えた本番、トップバッターで、あっという間に演武の時間2分が過ぎました。何点を取れたのかは分かりませんが、確実にベストを尽くせたので後悔はありませんでした。それでも、上手い人の演武を見れば、自分達もまだやれると思いました。ベストを尽くせたのは、引っ張って下さった先輩や、先生、同じ県の代表の方達に、とても感謝しています。来年も挑戦したいと思いました。



## 活躍する仲間

### 第35回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会将棋部門

#### 近畿総合文化祭

3E 小田樹也

近畿総合文化祭（通称「近総」）は自分にとって馴染みの深い大会の一つである。高専生になってから将棋の色々な全国大会に縁があったが、唯一私が一年生の頃から毎年出る事の出来た大会だったからだ。各学校の先輩方に憧れ追いつこうとしていた私もついに最後の出場になった。高校生の枠で出られる最後の大会であり、去年ベスト4止まりだったため、今年こそはと意気込んでいた。

1日目の予選はストレートで抜けることができ、いざ2日目、決勝トーナメント。ベスト8で当たった学校は昨日辛勝した江南高校（兵庫）。大将として、また最上級生として負けられない戦いである。何とか自分は勝つことが出来たが、副将は負け、勝敗の行方は三将に。いい勝負だったが、結果は負けだった。

福井高専は元々、強豪校ではなく、団体戦で全国大会に出る事なんて夢のような話だった。だが、2年生の時に優秀な後輩が入って来てくれたおかげで飛躍の年になった。今まで出場できなかった大会にも参加できるようになった。今年も優秀な後輩が入って来て2回目の黄金期を迎えていた。高校生の大会にはもう出場できない私が言うのは無責任かもしれないが、来年も是非よい成績を残してほしい。勝って上の大会に出れば見知らぬ強敵と闘うことになり、必ず良い経験になるからだ。



### 第35回近畿高等学校総合文化祭鳥取大会囲碁部門

#### 最後の近畿高等学校総合文化祭

2B 布田匡希

僕は11月21日、22日に鳥取で行われた第35回近畿高等学校総合文化祭、囲碁部門に出場しました。昨年の第34回大会では運営と選手の両方を兼任しましたが、今回は選手のみでした。昨年は個人戦でしたが今回は団体戦の四将で出場となりました。5月の大会以来他校の選手とは打っておらず移動中はずっと不安でした。移動中は囲碁アプリを使いCPUやオンラインで他の人と打ち感覚を取り戻していました。倉吉駅に着いてすぐ会場に行き荷物を置いて開会式がありその後すぐに試合となりました。

第1回戦は先手で打つことになりました。最初の10数手で相手が自分よりも実力が上だとわかりました。中盤までは自分の思う通りに打つことができたが最初の差が縮まらず終盤に投了し、1回戦は負けました。（投了とは途中で負けを認め降参すること。）休憩時間に気持ちを入れ替えて2回戦に挑みました。2回戦も先手で打つことになりました。今回も実力が上の相手で自分の思い通りに打てず中盤で投了しました。3回戦も先手になりました。今回は自分と同じくらいの実力の相手でした。中盤までは自分の思う通りに打て、互角の勝負でした。その後自分がミスをし、不利なまま終盤となりました。ほぼヨセ（双方の地を確定していくこと。）に入り負けたと思いながら打っていました。しかし、相手が1手押えないといけない所を押さえておらず、そこに自分が打ちギリギリで逆転し勝つことができました。この1戦は自分の中でも心に残る1戦でした。1日目はこれで終わり、ホテルに戻り英気を養いました。2日目の4、5回戦は2戦とも後手で実力が自分より上でした。どちらも中盤で投了しました。最終結果は1勝4敗、団体戦の結果としては5敗に終わりました。最後の大会でしたが自分にとって価値のある1勝を掴むことができました。これからも囲碁を続けていきたいです。

## 活躍する仲間

オムロン・高専機構 共同教育プロジェクト 平成27年度生産技術コンテスト

### 新たな経験

3M 田 保 久 博

生産技術コンテストに参加してみようと思ったきっかけは、今回参加した私以外の二人から誘われたのがきっかけでした。このコンテストを通して、自分の将来は幅広い可能性があることに気付くことができました。本当に感謝しています。

コンテストは、機械の制御を自分達で考え、その正確さを主に競う内容であった。競技結果は7チーム中の3位。3ヶ月間頑張った成果が報われ、とても嬉しかったです。ほとんど知識になかったプログラムの言語やほぼ初めて行ったプレゼンテーションは、最初から最後まで全てが新鮮でした。私は、3年生でC言語のみを授業でやっていたので、初めて使う言語に、なかなか馴染むことができませんでした。制御機器が突然動作しなくなり、1週間、時間だけが過ぎた時もありました。その時は「本当に本番までにできるようになるのだろうか。」と不安でした。しかし、チームメートと諦めずにテキストを読みあさり、少しずつ理解していきました。本番に必要な知識が徐々に身についた時は、やればできるものだなと思いました。本番前に、本番に必要なプログラムがなかなか終わらず頭を抱えた時も、口では諦めたような事を何度も口にしてしまいました。しかし、最終的には諦めずにギリギリまでプログラムに向かいあうことができました。本番では、ひとつのプログラムが動かなかった事が唯一の屈辱でした。しかし、自分達の努力を信じて、実力を出し切ることができたと思います。

今回の生産技術コンテストで得られたことは、知識だけではありませんでした。本番以前からSNSで他高専の学生と情報交換したり、他高専の人と宿泊部屋が一緒だったことで交流を深めることもできました。コミュニケーションでは、これまでに無い経験でした。

最後に、今回得た経験と知識を今後に繋げられるように学校生活を送りたいです。



第24回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に参加して

### 第24回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に参加して

F4 谷川友基

1月の28日から二日間に渡り、第24回全国高等学校文化連盟将棋新人大会があった。全国大会には今年度、何度か出場させていただいたが、これまで特に自慢できるような結果を残していない。そのため、今回こそはと意気込んでいたのを覚えている。

また、今回は新人大会ということもあり、今までの大会よりも勝てる可能性が高いと考えていた。

しかし、自分の考えはぜんぜんあまく、結果を申し上げますと、今回も予選落ちだった。自分なりに善戦をしたつもりだったが、作戦が悪く勝ちきることができなかった。ただ、今回の敗北は自分の弱点がはっきりと見えた貴重な敗北だった。これまでも、負けるたびに少しずつ自分の弱点を見つけ克服してきたが、今回見つけた弱点は今までのものよりもはあるかに貴重なものが見えた。それを克服すれば、来年度以降全国でも勝てるようになるかもしれない。今年度中にはもう大会はない。次の大会は、来年度の選手権大会の福井県予選となる。それまでには十分に時間があるので、それまでに今回見つけた弱点を克服したい。

今大会及び今年度あった全ての大会で、私は様々な方の支援を頂いた。私自身、精一杯頑張ったのだが、皆様の期待に応えられるような結果を残すことができなかったことを申し訳なく思っている。今年度私を支えてくださった全ての方に、感謝と謝罪の気持ちを込めて、最後とさせていただく。



## 活躍する仲間

### 平成27年度 優秀学生賞



独立行政法人  
国立高等専門学校機構  
理事長表彰  
専攻科生産システム工学専攻2年  
**米村 建哉**



独立行政法人  
国立高等専門学校機構  
理事長表彰  
専攻科環境システム工学専攻2年  
**松浦 和也**



日本機械学会富山賞  
機械工学科5年  
**石橋 健太**



公益社団法人  
計測自動制御学会北陸支部  
優秀学生賞  
機械工学科5年  
**水野 優**



電気学会北陸支部  
優秀学生賞  
電気電子工学科5年  
**山下 誠人**



公益社団法人  
日本電気技術者協会北陸支部  
優良卒業生  
電気電子工学科5年  
**前田 梨沙**



一般社団法人  
映像情報メディア学会北陸支部  
優秀学生賞  
電気電子工学科5年  
**岡本 克哉**



電子情報通信学会北陸支部  
優秀学生賞  
電子情報工学科5年  
**千葉 大輝**



情報処理学会北陸支部  
優秀学生賞  
電子情報工学科5年  
**出口 風人**



公益社団法人  
日本化学会近畿支部  
優秀学生賞  
物質工学科5年  
**中山 和也**



公益社団法人  
日本化学会近畿支部  
優秀学生賞  
物質工学科5年  
**飛奈優花**



日本分析学会中部支部  
優秀学生賞  
物質工学科5年  
**川尻 恵**



日本分析学会中部支部  
優秀学生賞  
物質工学科5年  
**北代祐椰**



福井高専工業化学科・  
物質工学科同窓会  
悠志会賞  
物質工学科5年  
**宮谷志保**



全国高専土木工学会  
近藤賞  
環境都市工学科5年  
**高田 康平**



福井高専土木工学科・  
環境都市工学科同窓会  
翔土会賞  
環境都市工学科5年  
**高田和佳菜**

## 活躍する仲間

### 平成27年度 資格取得者一覧 (速報・判明分のみ)

#### 本科生

資格名	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科
基本情報技術者試験	山田 涼太	4EI	椿 大弥	2E				
工業英検3級	粟田 早稀	4EI	坂永 城麻	4E	佐野 純希	4E	田中柚莉亞	4E
第2種電気工事士	石川 大貴	4E	玉村 北斗	4E	三上 雅也	4E	三反崎港人	4E
	玉村 達哉	4E	松田 尚大	2E				
	三田村竜希	4E						
技術士一次試験(建設部門)	奥田 祐女	4B	勝見 大雅	4B	吉田 圭輝	4B	山崎 大嗣	4B
	水上 柚香	4B	敦賀 勇介	4B	関本 大晟	4B	増永 潤紀	3B
	山貴 紗称	3B						
機械設計技術者3級	五十嵐大知	4M	小林 大貴	4M	藤野 丈	4M	山本 雄大	4M
	伊藤 多聞	4M	高島 克典	4M	辺見 拓雄	4M	吉野 魁徒	4M
	岩上 尚生	4M	田中 竜一	4M	村島 和樹	4M	垣谷 悠介	4M
	中田 森介	4M	森田 浩紳	4M	藏 孝司	4M	林田 剛一	4M
	山本啓太郎	4M						
CAD利用技術者試験2級	田中 竜一	4M	藤野 丈	4M	吉野 魁徒	4M	奥田 祐女	4B
	幸永 幹真	4B	濱内 崇行	1PS				
測量士補	竹島僚汰朗	4B	宮本 紗樹	4B	小川 海斗	3B	奥山 裕次	3B
	北川 敬介	3B	後藤 良知	3B	高村 亘	3B	辻 祥平	3B
	増永 潤紀	3B	山貴 紗称	3B	緩詰 正成	3B		
コンクリート製品検定(上級)	宇佐美怜志	5B	島田瑛実香	5B				
コンクリート製品検定(中級)	高島 瑞貴	5B	加藤 恵資	4B	釜井 剣	4B	住本 龍仁	4B
	関本 大晟	4B	高橋 美玖	4B	竹島僚汰朗	4B	水上 柚香	4B
	三村 優太	4B	山崎 大嗣	4B	吉村 紗愛	4B		
コンクリート製品検定(初級)	市橋 郁花	4B	勝見 大雅	4B	高橋 克哉	4B	船木 啓太	4B
	幸永 幹真	4B	五十嵐比菜	3B	井波 航大	3B	上坂 征大	3B
	及川 晃広	3B	大村 理貴	3B	小川 海斗	3B	奥山 裕次	3B
	鬼塚 愛華	3B	勝森 和真	3B	加藤 順	3B	北川 敬介	3B
	熊木 優人	3B	五嶋 友哉	3B	後藤 良知	3B	近藤 瞳	3B
	酒井 公睦	3B	高村 亘	3B	竹内 悠華	3B	竹村 源真	3B
	田中 混大	3B	田中 優貴	3B	辻 祥平	3B	出口 稔悟	3B
	中村 友紀	3B	濱本 蒼汰	3B	平井 佑季	3B	前田 崇貴	3B
	増永 潤紀	3B	松原 一樹	3B	宮谷 真由	3B	村上 泰晟	3B
	森 祥祐介	3B	山本りつこ	3B	緩詰 正成	3B	稻本 隆治	2B
	上田 竜也	2B	奥村 彪永	2B	岸本 恵太	2B	串崎 優文	2B
	島脇 優里	2B	新谷 亮祐	2B	高島 賢斗	2B	高橋 未紗	2B
	立壁 凉虎	2B	堂山 博史	2B	埜村 ひな	2B	林田 泰樹	2B
	檜木 泰宏	2B	藤田里依奈	2B	松田 健吾	2B	松山 悠斗	2B
	森 真七会	2B	安川 匠	2B	安川 大渡	2B	山崎 太介	2B
	山田 凌司	2B	山本 麻由	2B	増田 葵	2B		
公害防止管理者資格水質1種	中山 珑司	4C						
防災士	塚本 清正	5B	中井 悠仁	5B	宇佐美怜志	5B	岡田 拓樹	5B
	島田瑛実香	5B	山下 茉莉	5B	山田 裕正	5B	村上 凌	5B
	山本 武	5B	西川 貴志	5B	大塚 慎也	5B	水本 翔大	5B
	高田 康平	5B	高田和佳菜	5B	堂山 翔平	5B	奥田 祐女	4B
	小西 希依	4B	中本 邦子	4B	堀 亜希菜	4B	三村 優太	4B
	宮本 紗樹	4B	山崎 大嗣	4B	芝田 輝良	1PS	高橋 郁也	1PS
	通自 達也	1PS	濱内 崇行	1PS				
英検2級	高島 嘉也	3EI						
英検準2級	柄川晋太郎	4C	井口 昇之	3EI	早瀬 夏貴	3EI	高越奈那子	3EI
	山田 曜菜	3EI	山岸 水紀	3EI	津田 彩加	3EI	山路 龍斗	3EI
	日向 航	3EI	岩腰 真悟	3EI	飛田 彩夏	3C	松島 唯	3C
	松原 一樹	3B	山本りつこ	3B	木倉 一誠	2M	林 憲輝	2M
	廣川 航	2M	山口 混太	2M	横坂弘太郎	2EI	木下 諒星	F1
	中村 優介	F1	山本 真嘉	F1	金泊 武都	F2	スピリトマテウス	F2
	眞柄 尚弥	F2	中川 知哉	F3	山本 翼	F3	石川 奈央	F4
	柴田 光貴	F4	向井 玲椰	F4	東 希隆	F5	飛坂 直哉	F5
	吉岡 孝通	F5	吉本 亘輝	F5				
実用英語技能検定準2級	窪田 圭佑	2E	津谷 龍一	2E	藤田 晴香	2E		
デジタル技術者検定3級	清水聰太朗	3EI						
数検準2級	河野 智弘	F1	山浦 直樹	F1	谷川 友基	F4		

## 活躍する仲間

## 平成27年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要

No	代表学生	学年	学科	部門	テーマ	連絡教員
1	小山田瑞季	2	電気電子工学科	自由	排水による水力発電	西城 理志 (電気電子工学科)
2	清水 大雅	4	電気電子工学科	自由	焼き芋機の改良	五味 伸之 (機械工学科)
3	眞名垣優愛子	5	電子情報工学科	自由	高専祭における高専生の創作活動の合同展示会の実施	岡本 拓夫 (一般科目教室)
4	宇野 喬人	3	電子情報工学科	自由	ティーパッティング用ネットの作成	辻野 和彦 (環境都市工学科)
5	野村 信吾	5	電子情報工学科	課題	レーザー加工機を用いた実験室・教員室のLEDアクリルプレートの作製	小松 貴大 (電子情報工学科)
		件数	5	件		

## キャンパスプロジェクト研究概要報告

## 2E 小山田 瑞季

私たちは今回のキャンパスプロジェクトで小水力発電についての研究を進めました。

キャンパスプロジェクトを進めていく中で、モーターを注文していた業者から音沙汰が無くなってしまいモーターが買えないなど、いろいろなトラブルが起きました。しかし、私たちは決して諦めることはせず、買うはずであったモーターの代用品を取りそろえて対応しました。

今年、一年間を通してキャンパスプロジェクトを進めていくなかで、私達が学ぶ工業の理論が、製品にどのように活かされているかや、計画を順調に進めることの難しさなどを学びました。そのなかで私が一番大切だと思うことは「諦めない心」です。「諦めない心」がキャンパスプロジェクトをやり通すことができたもっとも大きな力となったと思います。

この福井工業高等専門学校は普通科の高校では体験できないいろいろなことに挑戦できるところだと思います。私はここでもっといろいろなことを学び、挑戦したいと思います。そしてもっと、たくさんの学生に「諦めない心」を学んでもらいたいです。

## 4E 清水 大雅

本年度、私達のグループでは平成25年度にキャンパスプロジェクトで製作した焼き芋器の改良を主目的とした研究を行った。

研究のメインとなった問題点は、「夏と冬で芋の焼き上がりに大きな時間差がある点」であった。実際に、夏は1時間で焼き上がるのに対して冬は2時間以上の時間を要した。焼き上がりが遅いと効率的に芋が焼けなくなり、イベント等で大人数に焼き芋を配布する事が困難になるため、なるべく解決したい問題点であった。

当初、冬は温度が低いために焼き上がりに時間がかかるのではないかと思っていたが、温度試験を実施してみるとその認識が誤りであった事に気づき、ただ単に芋を焼く器具といっても外気温だけで解決できるほど単純ではない点に面白さを感じ、更に細かい原因を追求するために複数回温度試験を実施した。

結果からいうと、原因の特定には至らなかった。しかし、原因となり得る事象はかなり絞ってきたので、来年度も引き続き原因の追求を行っていく所存である。

## 活躍する仲間

### 高専生学生展示会プロジェクト

3E 前 田 沙斗子

この展示会プロジェクトが誕生したのは、「高専生が創る視覚作品ってどんなものになるんだろう?」という思い付きからでした。思い付きから始まった企画というだけあって、何から始めてよいのか最初は見当もつかないような状態でしたが、ひとつひとつプロセスを組み立てていき、開催にこぎつけることができました。

今回のこの企画の大きな特徴として、広報用のポスター・チラシを作成したことが挙げられます。A2の大きなポスターを10部、同じ絵柄のA4広報チラシを1000部作製し、アルプラザ鰐江様、TUTAYA様をはじめとした多くの施設にはたらきかけ、展示して頂きました。広報の効果もあってか、本番である高専祭3日間で、およそ700人の方々がご来場下さり、当企画は大成功を収め、終了することができました。

初めての試みで、何度も行き詰ることもありましたが、その都度対応してくださった先生方、応援してくださった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

### 『更なる練習環境の充実を目指して』

2B 長谷川 陽 紀

これまで硬式野球部には2台しかティーネットが無く、練習の効率的な進行を妨げていました。また、新たにティーネットを購入しようにも、一台4万円から5万円と高価であり、部費ではまかないきれませんでした。

そこで、今回、平成27年度キャンパスプロジェクトに「ティーネットの製作」を提案しました。製作においての作業には、全て部員が携わりました。フレームには建設資材の単管を使いましたが、これらの部材の切断、切断面の研磨はM科の部員が担当しました。また、ペンキを塗る、ネットを張るといった作業には部員全員で協力して行いました。こうして、5台のティーネットを完成させました。費用も

一台あたり約2万円と市販のものの半額程度で作ることができました。

これまで先輩方がキャンパスプロジェクトで製作された手作りトンボや散水装置等により、硬式野球部の練習環境は著しく向上してきました。作製したティーネットによって、来年以降の練習効率の向上が期待できます。二年連続で選手権大会の一回戦を突破できました。今後も県大会でベスト8以上を目標に頑張って行きます。キャンパスプロジェクトに採択して頂けたことに感謝します。ありがとうございました。

### LEDアクリルプレート(ネームプレート)作成

4EI 田 中 董

私達が作成したのは教室・教員室・実験室等の名前が書かれたネームプレートです。レーザーカッターを用いてネームプレートを切り出しただけでは単純なので色々とアイデアを出しました。

まず、アクリルプレートは透明とし、表面をレーザーカッターで部屋名等の文字を彫刻し、プレート側面から入射したLEDの光によって浮かび上がらせることです。壁に設置されたプレートの土台に挿入するための基盤やLED形状等の選定にはだいぶ苦労しました。LED光入射面以外のプレート側面からの光の漏れを防ぐためにメッキ加工を実施しました。また裏面からでも見えるようにプレートを2枚重ねにし、間に黒い紙をはさみこんだりしました。

次に一目で実験室や教員室が分かるように、歯車といった特徴的な形状をしたプレートフレームのデザインをいくつか考えました。その他にプレートフレーム形状が“TOILET”という文字をあらわしているデザインも考えました。

実際に作成してみるといくつか問題が発生しましたが、ある程度対処することができました。機会があれば、来年度も引き続き実施し学校全体に広げていきたいと考えています。最後になりますが、このようなものづくりという貴重な機会をいただきましたキャンパスプロジェクト関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 見学旅行

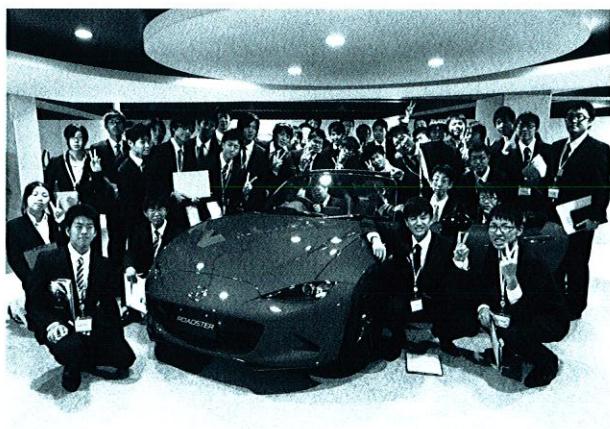
## 見学旅行について

## 僕達は機械工学科の学生です

3M 塚田 純太

今回の見学旅行で私は自分達が機械工学科の学生だということを改めて痛感しました。それは研修旅行へ行く前から始まっていました。旅行の説明に来てくれた添乗員のお姉さんにテンションMAXのクラスの男子達。「ああ、僕たちは機械工学科だな」と思い、出発が待ち遠しくなりました。旅行中の移動のバスの中では、いつも通りの騒ぎ具合。しかし、研修先の会社に到着すると、目の前に現れる見たことのない工作機械や最新の技術に目を光らせていました。自分達が座学や実習で学んできた旋盤や鋳造等は、とてつもない規模のもとで活用されていてとても感動しました。特にマツダ株式会社での見学では、皆が皆、エンジンに釘付けとなり、まじまじと眺め続けており、改めて機械工学科だなあと嬉しくなりました。普段は決して入れない場所にも行かせていただき、貴重な社会勉強ができました。さらには、高専を卒業された先輩方の人生の貴重なお話を聞くことができ、これからの自分の進路について多く考えるきっかけとなりました。

クラスの皆さんこの旅行でたくさんのことを得たと思います。残りの高専生活を機械工学科としての誇りを持ち過ごしていこうと思います。



## 楽しかった研修旅行

3E 長谷川 謙

研修旅行1日目、私たちは滋賀の野洲市にある村田製作所へと向かった。その事業所では、材料分析によって製品開発に貢献している様子を見学させて頂き、この時期に杭打ちデータ改ざんで話題になっていたデータの取り扱いや安全対策について聞くことができた。私はそれらに対する意識の高さに感銘を受けた。次に大阪の造幣局へ行き、貨幣の作られる過程や貨幣の歴史について学んだ。どうやら、昭和64年の十円硬貨は貴重らしい。2、3日目は九州のテーマパークを心行くまで満喫した。そして、ホテルで疲れた体を休めようと思っていたが、私はホテルの漫画コーナーへ引き寄せられ、読書に耽ってしまった。夜更かしした結果、4日目の朝に寝坊した。私たち3人は急いで着替え、タクシーに乗り、九州国立博物館で皆と合流した。そこでは、ボランティアガイドさんに太宰府の歴史について詳しく説明して頂き、今まで以上に日本の歴史について興味を持った。

今回の研修旅行では、寝坊というハプニングこそあったものの、工場見学、文化、歴史等非常に幅広い貴重な体験ができ、これらの知見を学校生活、ひいては社会に出てからも活かしていきたい。



## 見学旅行

# 見学旅行について

### 多くのことに触れた研修旅行

3EI 宇野喬人

3EIの研修旅行は専門分野だけでなく、様々なことについて貴重な体験ができた旅行でした。旅行の始まりはカップラーメン博物館からでした。はじめから専門とはまったく関係なかったですが、カップ麺の歴史を知ったりみんなで（小学生に混じって）オリジナルカップラーメンを作ったりとても楽しくはしゃぎました。二日目には、しっかりと専門の勉強をするためにロボスクエアにいき、さまざまなロボットを目や体で体験しました。昼からはハウステンボスに行き、アトラクションを楽しみ、夜にはきれいな夜景をみんなで眺めることができました。三日目には旅行の目玉となる、軍艦島見学ツアーにいきました。しかし、みんな旅行の疲れとあいまってか、途中の船で酔う人達が続出し、なかなか大変なツアーになりました。しかし、軍艦島が見えてきたときには歓声が上がって、本当の戦艦のような形に驚きました。ガイドの方も面白い方でとても笑わせてもらいました。四日目には福岡城跡地のバーチャル体験をし、歴史を直に感じることができました。3EIの旅行は専門だけでなく様々なものに触れることができ、とても新鮮で貴重な体験ができました。



### 見学旅行 of 3C

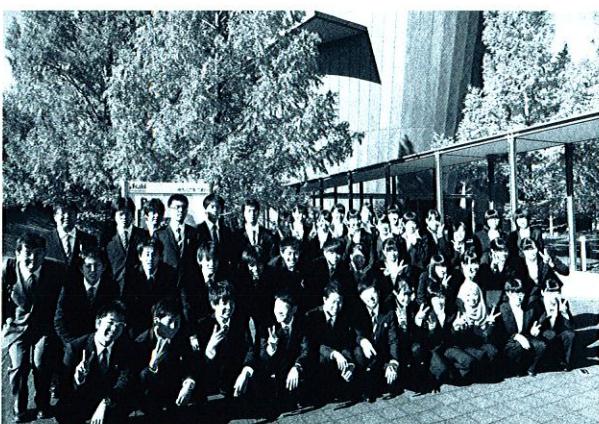
3C 加藤颯捺

私達3年C科は関東方面へ見学旅行に行きました。ビシッとスーツを着てアサヒビール、ヤクルトの工場見学をさせていただきました。工場の中は機械だらけで従業員の方が少ないという印象が大きかったです。機械に負けないくらい必要とされる人材になるために今できる勉強を一生懸命やろうと思いました。

クラス交流会として行ったボーリング、カラオケでは、みんな踊って騒いで更に仲が深まったと感じました。3C担任の西野先生がしめに「ほたるの光」を歌ってくださり大笑いしたことを覚えています。

見学旅行では、時間を守ること、TPOに合わせることなど他にもたくさんのこと学ぶことができました。私達が安全に楽しく行動できたのは担任の西野先生、副担任の山田先生、バスガイドさん達のおかげです。ありがとうございました！

新幹線の乗り換えが4分しかなくみんなで全力疾走する、というハプニングから始まった見学旅行でしたが、一生の思い出に残るとても楽しい時間でした！！！



## 見学旅行・校外研修

### 見学旅行について

#### 自覚

3B 小川海斗

私たち環境都市工学科3年生一同は今回の研修旅行で大阪と九州に行きました。1日目は『新名神高速道路箕面トンネル』の工事現場見学をして、フェリーで1泊、2日目は『大分市アートプラザ』『九重「夢」大吊橋』『阿蘇火山博物館』を見学し、3日目は『厳木ダム』『九州国立博物館』『太宰府天満宮』『キャナルシティ博多』を見学しました。そこで私はこう思いました。今勉強していることがこのように社会に貢献できるんだと。そして、私はもっと将来を意識して勉学に励まなければならぬと感じました。また、フェリーではクラスメイトと寝食を共にし、普段とは違った新鮮な生活感を味わえ、部屋でより深い話をしたのも1つの思い出になりました。

今回の研修旅行を通して、自分が「環境都市工学科の人間」であることを改めて感じました。自分達が普段経験し得ない貴重な体験ができました。この貴重な体験をこれから的生活に生かせるように努め、福井高専の環境都市工学科の人間であると自覺し、残りの高専生活を過ごしたいです。

### 校外研修について

#### 校外研修に行って

2E 雉田圭佑

私たちは今回の校外研修で、敦賀のパナソニックAIS社(オートモーティブ・インダストリアルシステムズ社)と大野のニチコン製箔株式会社に行きました。

まずパナソニックAISに到着し、工場の見学のあと高専のOBの方が在学中にやりたかったこと、仕事での経験などを語ってください、自分の将来や今やるべきことを考える良い機会となりました。次にニチコン製箔社の工場に行きとても大きな工場との設備を見学しました。今までに見たことのなかつた大きな機械と大きな音に圧倒されました。

今回、直接工場を見学することによって一部ではありますが、仕事というものはどういったものかを肌で感じることができました。

企業の方々のお話の中で最も印象に残っている言葉は「学ぶ」という言葉です。その中でも自分で学びに行くという姿勢が大切であり、そのためにもコミュニケーション能力と幅広い知識を持つことが大切だと感じました。

また、今回の研修旅行ではこれら以外にも多くのことを学び考えることができました。これからの学校生活ではこの経験を活かし、考えたことを少しづつ身につけながら、将来に向けて準備していきたいです。



## 校外研修

# 校外研修について

### 校外研修

2C 金子 龍幸

私たち2Cは校外研修として、鯖江村田製作所とパナソニックに行きました。校外研修の前日、私は少し不安でした。誰もが知っているような企業に行くのは初めてで、無礼な態度をとったらどうしようと不安になっていたのを思い出します。

校外研修に行くにあたって不安もありましたが、疑問もありました。なぜ化学が専門の私達がその工場に行くのかということです。当時私には、村田製作所は機械、パナソニックは電子情報というイメージがあったためこののような疑問を持ったのです。村田製作所の中を見て回った時にわかりましたが、化学はマイクロチップ等にメッキ加工するために使われています。正直驚きました。こんなにも身近なと

ころで化学が使われているなんて。

パナソニックも村田製作所と同じでメッキに化学が使われていましたが、あちらは機械や電子情報の方がメインなのではないかと感じました。どちらの企業も私達に厳しい対応はせず、あたたかく迎え入れてくれました。この校外研修で私は今学んでいる勉学がどれだけ就職に役立つかわかりました。勉学をしっかり身につければ進路選択の幅も広がり、自分自身の向上にもなります。よりいっそう頑張ろうと思いました。

### 平成27年度 第2学年校外研修先一覧

学 科	研修日	研 修 先	引率者
機 械 工 学 科	10月28日(水)	日本電産テクノモーダ株式会社	手嶋泰伸 亀山建太郎
		小野谷機工株式会社／北陸リトレッド株式会社	
電 気 電 子 工 学 科	10月28日(水)	パナソニック株式会社デバイス社	池田昌弘 河原林友美
		ニチコン製箔株式会社 富田工場	
電 子 情 報 工 学 科	10月28日(水)	株式会社DMM.comラボ 金沢事業所	廣重準四郎 小越咲子
		澁谷工業株式会社	
物 質 工 学 科	10月28日(水)	株式会社鯖江村田製作所	森井芳樹
		パナソニック(株)オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 デバイスソリューション事業部 森田	
環 境 都 市 工 学 科	10月28日(水)	新福井県営体育馆建築工事	青木宏樹 樋口直也
		吉野瀬川ダム建設工事 (主) 武生米ノ線3号橋(仮称) 上部工工事	

## 遠足

## 遠足について

## 遠足を終えて

F2 金 粕 武 都

今回の遠足で、私たちF2クラスは、「ラポーゼ河田」に行きました。そこには、バーベキュー施設や入浴施設、芝生広場などがあり、1日中楽しむ事ができるレジャースポットでした。また、とても自然豊かな場所で、多種多様な植物が生い茂り、冷たい水のように張り詰める澄んだ空気は、今まで吸い込んだことのない、と感じるほどきれいなものでした。

私はこの遠足で、先生を含めたたくさんの人と友好関係を築くことができました。普段の学校生活では、話す機会がなかった人とも、授業のように改まったものではなく、楽しげな雰囲気での様々な企画による交流を通して、話しやすい環境ができ、仲を深めることができました。

私は、遠足が終わった今、改めて遠足の目的は何か、と考えると、クラスメイト及び先生と仲良くなる、ということだと思いました。他にも様々な目的があるかもしれません、幼い頃から、何度も遠足を経験してきて、やはり、それが最もだと思いました。このように考えると、遠足は重要な行事だと感じ、これからも行っていくべきだと思いました。

## 遠足によって得たもの

F3 橋 本 一 希

高専祭が終わって四月の頃とはクラスの雰囲気がまったく違うものになっていました。皆が仲良くなつた後のこの遠足では、元々仲の良かった友達との絆をさらに深めるといった印象でした。四人一組になって決まった量の材料を自分達で焼き、食べました。調理中や食事中の友達との会話もとても樂しいものでした。お昼ご飯を済ませた後は各自自由に時間を使ってもよいとのことでした。僕は最終的には本館の方で友達とゆっくり喋っていましたが、それまでは外で遊んでいるクラスのメンバーの様子を見ていました。その時にふとこのクラスは一年で終わりだということが思い出されました。一年で終わるのだから人と関わらないと考えるのではなく、一年しかないから今この機会を無駄にしないように人と関わった方が良いと思いました。サッカーや鬼ごっこ、人狼など様々な遊びをしているのに参加し、楽しみました。遠足も終わりに近づき、皆が集まってきたしました。遊び疲れた皆の顔が印象的でした。これから二年生になると、学科が変わります。そこから四年間はそのクラスで同じメンバーなので、そこでの友達との絆を大切にしていきたいです。



## 留学生見学旅行・JOINTフォーラム

# 平成27年度外国人留学生見学旅行

## 平成27年度の留学生研修会報告

4M SUKCHAROEN KRITTAWIT

平成27年11月7日に行われた留学生研修会で、僕たちは岐阜県の高山市の古い町並みと白川郷の見学に行きました。

高専からかなり時間かけて高山市に着いた後、飛騨物産館でお土産を買って高山駅の近くにあるラーメン店でラーメンを食べました。その店はイスラム教のためのラーメンもあるので、初めてラーメンを食べる留学生たちはとてもうれしかったそうです。高山市には明治時代に建てた家や建物がたくさんありました。僕たちが見学した建物は、明治から昭和まで町役場、市役所として使用された高山陣屋でした。その中には、その時代に使用した文房具や所帯道具、服などが展示されていました。それを見たり先生の説明を聞いたりして、その時代の人の生活がわかりました。

次は有名な観光地で、UNESCOに認められた世

界遺産の白川郷へ観光しに行きました。そこは冬の季節がとてもきれいで聞いていましたが、秋も観光客が多く、とてもきれいな景色を見る事ができました。白川郷にある家は昔の技術を使って屋根の部分は雪の重さと強い風に耐えられるということが分かりました。

今回の研修は長時間の移動でちょっと疲れたが、いろいろな日本の文化を勉強でき、きれいな景色も見られてとてもよかったです。



## 『地域連携JOINTフォーラム2015を開催』

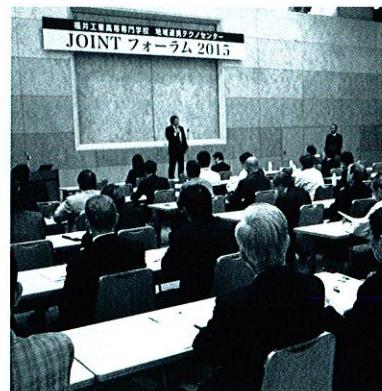
11月30日(月)、サンドーム福井小ホールにおいて「JOINTフォーラム2015」を開催しました。

本フォーラムは、本校と福井県内の企業および産官学金連携関係者との結びつきを深めることを目的として、地域連携テクノセンター主催で実施しているイベントです。なお、本フォーラムは、今年度から発足した「ふくいオープンイノベーション推進機構」の関連イベントとしても位置付けられるようになりました。今回は、福井高専と県内企業との共同研究事例紹介をメインテーマに開催したところ、産(本校の教育研究支援組織「地域連携アカデミア」会員企業等)や官(福井県等)、学(本校教職員等)、および金(銀行)から計125名(過去最多)の参加がありました。

松田校長の挨拶に続き、福井県立大学地域経済研究所教授の南保勝先生をお招きし、「丹南地域の経済動向と今後の地域デザイン」というタイトルで特

別講演を頂きました。また、テーマセッションでは、本校と県内企業における4つの共同研究テーマについて、本校教員2名、県内企業技術者2名が発表を行いました。また、プログラムの後半では、発表者の他、10名の教職員と4社によるポスター発表が行われ、活発な意見交換が行われました。

閉会にあたって、吉田センター長から本フォーラムをきっかけとした交流を行い、産官学金連携活動の推進に寄与したいとの挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



## コンテスト表彰式・中学生の皆さんへ

## 第21回マグネットコンテスト表彰式を実施

2月12日(金)、サバエシティーホテルにおいて「第21回マグネットコンテスト」入賞者の表彰式を執り行いました。同コンテストはものづくり教育の一環として、平成7年度から実施しているもので、県内外の小中学生、高校生、高専生、大学生から総数1,056件ものアイデアが寄せられました。中には実際のサンプルを作ってくれた作品もありました。厳正なる審査の結果、最優秀から佳作まで24件の作品、ならびに7校が学校賞を受賞しました。

表彰式の校長挨拶にもあったように、マグネットの「くっつく性質」、「反発する性質」、そして「電気を発生させる性質」は誰もが知っているのですが、これらの性質を巧みに利用する「ひらめき」が大事です。入賞作品は、この「ひらめき」に加え、実社会での使用を考慮した実現性や拡張性に優れ、審査員を「なるほど!」と納得させるものでした。式後の懇談会では、受賞者にコメントを頂き、応募に際してのエピソードを披露して貰いました。夏休

みの宿題や課題だったりすることが多いですが、決して周到な準備をしたり、練りに練った作品ではなく、アイデアが浮かんだ「瞬間」があったようです。

来年度、第22回のマグネットコンテストでは、みなさんのそんな「ひらめき」を期待しています。ぜひたくさん応募をしてください。

末筆ながら、多大なるご協力を頂きました信越化学工業(株)武生工場様をはじめ、関係教職員の方々に、厚く御礼申し上げます。



### 中学校だより

### 大野市上庄中学校の紹介

大野市上庄中学校

上庄中学校は大野盆地の南部に位置し、日本百名山である「荒島岳」を背に、肥沃で広大な高地と美しい緑の山々、そして清い水など自然に囲まれた学校です。校歌に「松のみどりに薙映え」という歌詞がありますが、美しい松林に囲まれ、赤い屋根がトレードマークの学校です。全校生徒96名(平成27年度)アットホームな雰囲気で、みんなとても仲が良いです。

上庄中学校は、生徒会活動が充実しています。体育祭では、委員会企画のおもしろい競技があります。今年は、男女ペアになって仮装して走るラブラブレース、ジュースやおかきを味わいながら走るグルメレースなどがありました。文化祭では、全学級がステージ発表をしたりお化け屋敷や縁日などの催し物をしたりと大変盛り上がりました。有志のステージ発表も多く、毎年創意工夫を凝らして取り組んでいます。その他には、上庄オリンピックやカラオケ

大会など楽しいイベントがあります。

部活動では、男子バレー部と女子ソフトボール部が夏の県大会で2位、北信越大会出場、スキー競技で全国大会出場と文武両道でがんばっています。これからも活躍にも期待してください。

また、上庄中学校のアイドルと言えば、みんなに愛され、13年間で延べ約500人の卒業生を見送り、天国へ旅立った犬のシロがいます。昨年12月にシロをイメージして、白く大きな花を咲かせる「こぶし」を記念樹として植えました。こぶしの花言葉は「友情・信頼・歓迎」で、誰にでも人懐っこかったシロにぴったりです。この花を見るたびにシロを思い出すことでしょう。



## 中学生の皆さんへ・退職にあたって

### 平成28年度 入学者選抜について

平成28年度入学者選抜は、推薦選抜が1月17日(日)に本校で、学力検査が2月21日(日)に本校、福井市地域交流プラザ、敦賀商工会議所及びひこね燐ばれすで理科、英語、数学、国語、社会の5教科により実施された。

2月25日(木)午前10時に205名の合格者を本校掲示板及びホームページ上に掲載した。合格者205名のうち、県外合格者は14名(滋賀県11名、京都府1名、大阪府1名、和歌山県1名)であった。

### 平成28年度入学者選抜実施状況一覧

学科	募集人員	志願者数			合格者数		計
		推薦	学力検査	倍率	推薦	学力検査	
機械工学科	40	28(2人)	27(1人)	1.38倍	19(1人)	22(1人)	41(2人)
電気電子工学科	40	22(1)	26	1.20	19(1)	22(2)	41(3)
電子情報工学科	40	22(7)	40(3)	1.55	19(7)	22(1)	41(8)
物質工学科	40	25(17)	35(7)	1.50	19(14)	22(6)	41(20)
環境都市工学科	40	30(13)	38(9)	1.70	19(10)	22(4)	41(14)
合 計	200	127(40)	166(20)	1.47	95(33)	110(14)	205(47)

(備考)(1)( )内の数字は、女子で内数。(2)倍率=志願者(推薦+学力検査)÷募集人員

(3)県外の合格者数 滋賀県11名、京都府1名、大阪府1名、和歌山県1名

### 退職にあたって



福井高専を  
退任するに当たって  
物質工学科  
小泉貞之

卒業生、専攻科修了生の諸君、おめでとうございます。小生も皆さんと同じ時に、永年勤めました福井高専を去ることとなりました。ここまで長く教鞭を執ることが許されましたのもひとえに皆様のお陰と感謝しております。

小生が本校に赴任しました頃は、毎年のように、学校の敷地内に新しい施設が建ち、教職員の数も増え、現在の基礎が出来つつある時でした。高専の黎明期は過ぎ、更に飛躍することは期待できましたが、それからの円熟期を迎えるにあたり、どの方向へ進むべきかと未知に対する不安が感じられました。現在は、学科を横断する多くの委員会があり、意見交流も盛んに行われておりますが、当時は、教員会議他少しの会議はありましたが、若輩者が他学科の先生方と直接お話しする機会は、ほとんどありません

でした。

そのころ若手の先生方が提唱し、YS会(若い科学者の集まり)が設立されました。将来について激論を戦わしておりました。と言えば聞こえがよろしいですが、単に集まって夜を徹して騒いでいただけの声もあります。新米の私も馳せ参じ、青臭いことを言って聾麹を買っていました。しかし、教員会議の議長を投票で選ぶというのもその会での発案ですし、その十年後には各メンバーがそれぞれ重責を担い、学校を牽引していたことも確かに、話しあっていたことを実現化していました。以来、時代の波に揉まれながらも、教職員、学生の力を結集して難局に対処し、半世紀の歴史を歩んで参りましたことは、誠に素晴らしいことだと思います。

2年前に、不徳の致すところで突然に入院を余儀なくされました。その際は、自分が担当しておりました講義・実験・卒業研究、その他諸処の校務等で学科の教職員をはじめ多くの方々に助けて頂きました。感謝しようがありません。ありがとうございました。最後になりましたが、今後の皆様のご活躍と本校の弥栄を祈念致します。

## 退職にあたって



### 退職を迎えて

物質工学科

平井 恵子

福井高専が創立50周年を迎えたこの年に、私の人生においても大きな区切りを迎えることになりました。この間、教職員の皆様と多くの学生諸君には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

福井高専に着任した当初は、国道を車で通る際に眺めた学校、中学の同級生が学んだ学校との出会いを感じながら通勤していたものです。

印象深いのは、インターネットの普及と一緒に伴い学生諸君のコミュニケーション手段が、ポケベル、携帯電話、そして、スマートフォンと急速に変化したことです。次はどう変化するかを楽しみにしているところです。

また、工場見学旅行は体力的には厳しいものでしたが、旅行中の出来事は今では懐かしい思い出です。

女子学生がクラスに1名の時期に電気工学科、環境都市工学科の見学旅行に同行し、その後は電子情報工学科、物質工学科に参加して、多数の企業様を訪問する機会を得ました。訪問先の一つは宮崎県のリニアモーターカー実験センターでした。前日に太平洋を通るカーフェリーに揺られた私は、睡魔と闘いながら説明を聞いたものです。時が移り、最高時速500キロで疾走するリニア中央新幹線の建設が始まり、夢の乗り物が現実のものとなったのです。

インターネットの普及や夢の実現に出会えたことは幸いです、これからも、時代の変化を柔らかく受け止めて楽しみたいと考えております。

これまで、多くの学生諸君と教職員皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。感謝いたしております。

福井高専の益々の発展をお祈りいたします。



### 福井高専の 2年間に感謝

事務部長

柴 正彦

今年は、例年ない遅い積雪。寒さが苦手な私にとっては嬉しい限りですが、自然環境などに与える影響を考えると心配です。今年でこの雪景色は見納めです。

2年間を振り返ってみると、平成26年4月1日着任早々の運営連絡会は、議題が盛りだくさんでした。愛煙家の私にとって「校内分煙化」の議題だけが記憶に残りました。学校行事としては、夏の全国高専体育大会の応援。四国(野球)=試合時間の変更で現地到着時には試合終了。状況が理解できなかつた校長と私は、応援グッズを持って唖然(笑)。沖縄(卓球)=台風直撃で延泊となった学生課長との珍道中。そして、創立五十周年記念式典。開催まで1か月を切っても詳細が決定しない状況に、せっかちな

私は不安な毎日でしたが、皆様のお蔭で無事終了することができました(感謝)。

生活面においては、嶺北、嶺南の名所旧跡を観光しました。東尋坊、永平寺、朝倉氏遺跡、越前大野城、丸岡城、恐竜博物館、小浜の放生祭、氣比の松原、レインボーラインなど、いずれも私の福井の思い出です。そして、わがままを言ってゴルフや飲み会にお付き合いいただいた方々に、感謝の気持ちで一杯です。ありがとう。

4月からは、地元つくば市に戻って、筑波大学のシニアスタッフとしてあと数年は働きたいと思います。そして、週末は妻と二人で、趣味のゴルフと家庭菜園で汗を流し、健康第一で充実した日々を過ごすことが目標です。

最後になりましたが、福井高専のますますのご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。2年間お世話になりました。

## 退職にあたって・学園通信



### 退職にあたって

学生課長

塙 崎 勇 夫

まだまだ若いと思っていましたが還暦を迎え、3月末をもって定年退職のゴールを迎えます。これまで38年間無事勤めることができましたのは諸先生方、先輩、同僚、友人の皆さまに恵まれ、ご指導とご鞭撻を賜ったことによるものと心から御礼申し上げます。また、心身ともに気遣ってくれた家族のおかげと感謝しております。

私ことでございますが、最初に富山大学で採用され、3年間仕事をさせていただきました。その頃は基礎を学ぶために規則を読み、勤務時間が終わったあと、先輩に仕事の処理の仕方や規則の運用方法を

教えていただきました。この時に基本を勉強したことが今でも役に立ったと思っております。次に、旧福井医大で仕事をさせていただき、その後平成元年から5年まで本校に勤務させていただきました。その時に電子情報工学科が設置され、電子情報工学科棟も竣工しました。そして福井大学に勤務させていただきましたが、再度、平成15年から本校に戻れましたことを本当に嬉しく思っております。平成16年に法人化され、高専の統合、建物改修等大きく変動しました。今後、厳しい環境の中でも益々発展・充実し、福井高専の皆様が健康に留意され、ご活躍されますよう心より祈念しております。最後になりましたが、これまでにお世話になりました皆さん、教職員の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。



### 『お世話になりました。』

総務課課長補佐(財務担当)

竹 内 富美明

昭和54年4月、富山で私の公務員生活は始まりました。10月の附属病院の開院に向け、多くの仲間と共に大量の採用でした。当時は分別もつかず、上司や先輩方には多大なるご迷惑をお掛けしたことと、汗顏の至りです。

2年後、福井に戻り、昭和58年の附属病院開院に備えて、契約業務に従事しました。業務は多忙を極め、夜、出前を取って、帰宅するのが深夜ということも度々でした。

当時は、現在のようにパソコンがある訳ではなく、原議書や資料なども全て手書きで、仕事の効率も悪かったのかと思います。

ただ、今と違い係員の数が多くて、皆が和気藹々とやっていた、古き良き時代でした。

平成6年、部下を持たない専門職員に昇任となり、

嬉しい反面、仕事に対して責任を負うことになり、身が引き締まる思いでした。

それ以降、幾つかの係長を拝命し、仲間と一緒に仕事をしていくことの大変さも経験させて頂きました。また、大学の統合、法人化という大きな時代のうねりも経験させて頂き、良い勉強になったと感謝しております。

平成19年、幸運にも昇格し、病院勤務で、主に患者の苦情受付を担当しましたが、この時が一番辛かったです。今思えば、傾聴することの大切さを学べたのかもしれません。

平成26年4月、福井高専に採用。最初は戸惑いながらも、アットホームな環境の中、教職員の皆様のお蔭で少しずつ慣れ、頑張ってこれました。衷心より感謝申し上げます。

37年間、光陰矢の如し。色々と悔いもありますが、その時々で力を尽くしてきました。

最後に、福井高専の益々の発展と、教職員の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

## 平成27年度 留学生懇親会

留学生主任 青山義弘

今年度の留学生懇談会は12月15日に行われました。日頃より留学生たちがお世話になっている鰐江国際交流協会から4名の協会委員の皆様、松田校長をはじめ留学生8名とそのチーフター、指導教員の方々にご参加いただきました。

まずは記念撮影から始まり、先生や鰐江市国際交流協会会員の方からご挨拶していただきました。そして、コシヒカリ30kgもプレゼントしていただきました。ありがとうございました。

次に、新人留学生の自己紹介の時間となりました。今年はマレーシアから政府派遣留学生として機械工学科に入学したシャフィック君、電気電子工学科に入学したイズワン君、電子情報工学科に入学したエズワン君、インドネシアから国費留学生として物質工学科に入学したディヤさん、計4人の新人留学生

を迎えて。それぞれ簡単な自己紹介してもらい、マレーシア出身の3人には分担して母国の名所、文化、そして食文化などパワーポイントで紹介してもらいました。インドネシア出身のディヤさんにも同じように紹介してもらいました。皆さん一生懸命発表してくれました。

そして、留学生とチーフターの紹介があり、5年留学生の進路の紹介もありました。それから先輩代表としてキダル君のユーモアたっぷりの挨拶とチーフター代表として梶谷さんの挨拶がありました。

最後は、アトラクションとして留学生とチーフター全員でMONGOL800の小さな恋の歌を歌いました。今年度も時間の関係で質問時間が短くなってしましました。来年度こそはもっと質問攻めできるくらいの余裕を持った進行を心がけます。



## 学園通信

### 平成27年度 福井工高等専門学校卓越した 学生の表彰及び 第2回学生表彰 (校長特別賞・校長賞) 受賞者

平成28年1月21日(木)に、福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者の表彰状授与式が行われた。

これは、本校の「学生表彰基準」に基づき表彰されるもので、第一体育館において全校学生の前での表彰式となり、松田校長から受賞者に賞状と記念品が手渡され、集まった学生から拍手で祝福された。

#### 福井工業高等専門学校卓越した学生

石橋 健太	5M	橋本 芹菜	5B
米村 建哉	2PS	松浦 和也	2ES

#### 校長特別賞

●第50回全国高等専門学校体育大会優勝(団体・個人)・準優勝(個人)				
◎テニス部 (男子団体戦)	森田 裕貴	4C	山崎 一真	3M
	田中 一輝	2EI	竜田 晃樹	4B
	三池 寧弥	2C	松山 悠斗	2B
	永田 天門	4C	勝森 和真	3B
◎卓球部(女子シングルス)	鈴木 優	3C		
◎卓球部(女子ダブルス)	藤田 瑞姫	4B	鈴木 優	3C
●第7回IIBC英語エッセイコンテスト最優秀賞受賞				
三田 竜大	3EI			

#### 校長賞

●第50回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体・個人)				
◎テニス部 (男子団体戦)	森田 裕貴	4C	山崎 一真	3M
	田中 一輝	2EI	竜田 晃樹	4B
	三池 寧弥	2C	松山 悠斗	2B
	勝森 和真	3B		
◎テニス部(男子ダブルス)	森田 裕貴	4C	山崎 一真	3M
◎卓球部 (男子団体戦)	井関 泰士	5E	山田 克樹	5C
	山下 翔	4E	有田 翔	3C
	長谷川 謙	3E	成田 匡希	3E
	片矢 理人	2M	武村 航平	2EI
	吉崎 拓海	2E		
◎卓球部 (女子団体戦)	高田和佳菜	5B	五十嵐春希	5B
	北川真由子	4M	藤田 瑞姫	4B
	鈴木 優	3C	山貴 紅称	3B
	護城 歩	2EI	黒河雅菜代	2B
	田中 碧	4C		
◎卓球部(女子シングル)	鈴木 優	3C		
◎卓球部(女子ダブルス)	藤田 瑞姫	4B	鈴木 優	3C

◎水泳部 (男子団体)	田中 浩貴	5M	岩壁 駿	4M
	巣守 翔	4M	高島 克典	4M
	松田 啓心	4E	中川 和優	4EI
	高橋 克哉	4B	奥田 雄斗	4C
	斎藤 圭吾	4C	又農 智史	3E
	石塚 凱斗	3C	奥山 瑶星	2M
	山根 圭悟	2M	横坂弘太郎	2EI
	立壁 涼虎	2B	佐々木祐輝	F1
	西島 晴玲	F5	三村 歩	F2
	定兼 拓永	F4		
◎水泳部(男子個人50m自由形)				
			三村 歩	F2
◎水泳部(男子個人400m自由形・800m自由形・400mメドレー・リレー)				
			立壁 涼虎	2B
◎水泳部(男子個人100m平泳ぎ・200m平泳ぎ・400mメドレー・リレー)				
			佐々木祐輝	F1
◎水泳部(男子個人200m背泳ぎ・200m個人メドレー・400mメドレー・リレー)				
			定兼 拓永	F4
◎水泳部(男子個人400mメドレー・リレー)				
			又農 智史	3E
◎水泳部 (女子団体)	宮本 紗樹	4B	八田 朱里	3C
	小林 椿	2M	山本 悠衣	2B
	蓑輪 奈穂	F3	木戸 美月	F4
◎水泳部(女子個人100m自由形・200mリレー)				
			八田 朱里	3C
◎水泳部(女子個人200mリレー)				
			宮本 紗樹	4B
◎水泳部(女子個人200mリレー)				
			小林 椿	2M
◎水泳部(女子個人200mリレー)				
			蓑輪 奈穂	F3
◎剣道部 (女子団体)	藤本 未香	5C	早瀬 夏貴	3EI
	田中真紀子	2B	佐々木まどか	F4
◎剣道部(女子個人)	佐々木まどか	F4		
●アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2015 東海北陸地区大会準優勝・アイデア賞受賞				
◎ロボット部 (Aチーム アイデア賞)	林田 剛一	4M	三田 竜大	3EI
	牧田 幸大	4E	明城 昌秀	2M
	竹内 裕樹	3M	藤 光亮	2M
	佐野 純希	4E	大瀬由符音	F2
◎ロボット部 (Bチーム 準優勝)	山崎 港大	4M	小濱 真宏	3M
	福田嶽太郎	4E	吉村 昂紘	3M
	藤戸 貴大	3EI	高間 海人	2EI
	堀口 日向	3EI	齋藤 韶	2M
●第2回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール 「北陸総合通信局長賞」受賞				
			見寺 勇人	2ES
			澤田 直也	2ES
			石坂 孝佑	5B
			加藤 黒花	5B
●第9回GPS・QZSSロボットカーコンテスト 「ダブルバイロンレース」部門優勝				
			牛若 光太	4EI
			小川 久介	4EI
●福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼第2回高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技大会選考会最優秀賞				
◎少林寺拳法部	小島亞素佳	2B		

## 平成28年度教育後援会総会

次のとおり総会を開催いたしますので保護者の方はご出席下さい。

期日 平成28年4月4日（月） 正午から

場所 本校 第一体育館

### 会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 校長あいさつ
4. 報告事項  
　　学校状況について
5. 審議事項
  - ①平成27年度事業報告案及び決算案について
  - ②平成28年度役員選出について
  - ③平成28年度事業計画案及び予算案について
  - ④会則の改正及び規則の制定について
  - ⑤そ の 他
6. 閉会



# 高専生活の一コマ



キャンパスプロジェクト発表会



喫煙の害に関する講演会



球技大会



交通講話



校長講話



第2回校長表彰